

NEXCO西日本グループ コミュニケーションレポート

要約版

2015



みち、ひと…未来へ。



ブランドネーム：NEXCO(ネクスコ)西日本

会社の英語表記「West Nippon Expressway Company Limited」の頭文字の一部からとりました。このブランドネームは、同時に、私たちの姿勢や熱意を示した「みち」とともに、「みち」の先へを表す「Next(次なる)」と、「Co(「共に」を表す接頭語)」の2つの語を包含しています。

ロゴマーク

NEXCOの頭文字「N」を3次元的に造形することによって、未来へと続く高速道路のダイナミズムを表すと同時に、「道を走ること」がもたらしてくれる心の躍動感を表しています。また、組み合わせるロゴタイプは、丸みと広がりを持たせたゴールド書体によって、ゆとりのある道路空間を表現するとともに、高速移動中でも高い視認性を実現しています。

ブランドカラー「ネクスコ・ブルー」

西日本・南日本の海と空の明るさをイメージした、鮮やかで清澄感のある青色です。

(お問い合わせ先)

西日本高速道路株式会社 本社 CSR推進課
 TEL(06)6344-4000(代表)
 FAX(06)6344-7183
 インターネットからのお問い合わせ：NEXCO西日本ウェブサイト(<http://www.w-nexco.co.jp>)から、「お問い合わせ」ページへアクセスできます。



「アイハイウェイ」とは、高速道路やサービスエリアをご利用されるお客さまの安全・快適な走行計画にお役立ていただくために、全国の高速道路の交通情報や道路映像などを24時間、携帯電話やパソコンのインターネットを活用して配信するサービスです。



「DRIVE&LOVE」は、「愛する人・愛してくれる人を想う気持ち」を原動力に、みんなでいっしょに交通事故ゼロを目指すプロジェクトです。



森林管理協議会(Forest Stewardship Council®)で認証された森林およびその他の責任ある由来の原料を含む「FSC® 認証紙」を使用しています。



大気汚染の原因となるVOC(揮発性有機化合物)の発生を減らすため、植物油インキを使用しています。

事業エリア(24府県)

〔凡 例〕 高速道路

- 営業中道路 (青線)
 - 事業中道路^{注1} (赤線)
 - 事業中道路^{注1} (新直轄方式^{注2}で整備する区間) (赤点線)
 - 他の自動車専用道路など (黒線)
- 注1 事業中のインターチェンジ等の名称は仮称
注2 国土交通大臣が施行主体となって高速道路を整備する方式

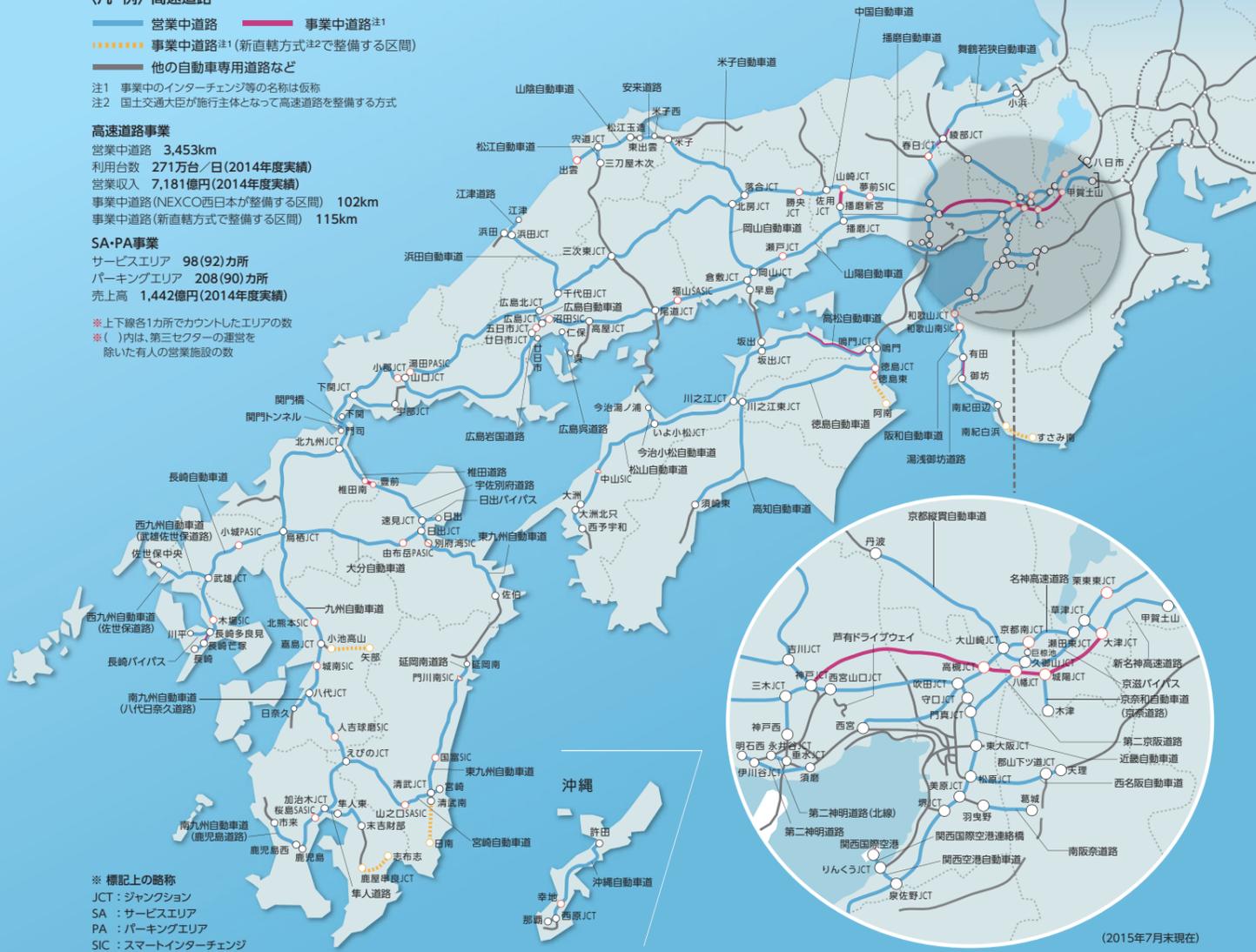
高速道路事業

営業中道路 3,453km
 利用台数 271万台/日(2014年度実績)
 営業収入 7,181億円(2014年度実績)
 事業中道路(NEXCO西日本が整備する区間) 102km
 事業中道路(新直轄方式で整備する区間) 115km

SA・PA事業

サービスエリア 98(92)カ所
 パーキングエリア 208(90)カ所
 売上高 1,442億円(2014年度実績)

※上下線各1カ所からカウントしたエリアの数
 ※()内は、第三セクターの運営を
 除いた有人の営業施設の数



※ 標記上の略称
 JCT：ジャンクション
 SA：サービスエリア
 PA：パーキングエリア
 SIC：スマートインターチェンジ

(2015年7月末現在)

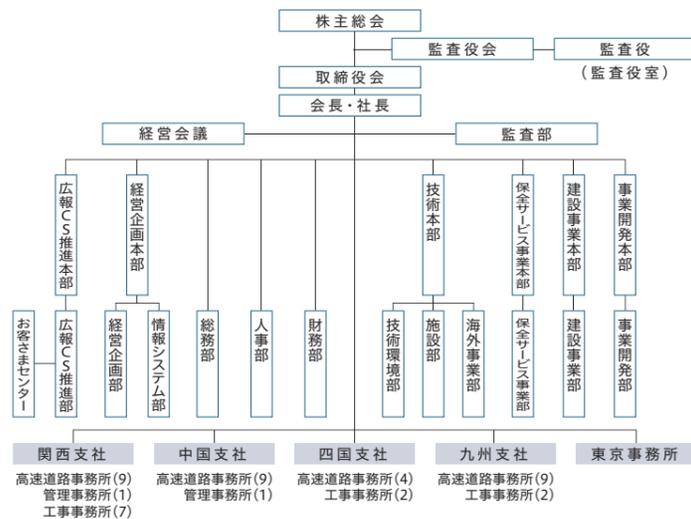
会社概要 (2015年7月現在)

商号 西日本高速道路株式会社
 (West Nippon Expressway Company Limited)
 代表者 代表取締役社長 石塚 由成
 本社所在地 大阪市北区堂島1丁目6番20号
 資本金 475億円
 設立年月日 2005年10月1日
 従業員数※ (単体)2,376人 (連結)13,507人
 ※ 2015年3月末現在

使用する略称

本レポートでは、「NEXCO西日本」「当社」は西日本高速道路株式会社を、「NEXCO西日本グループ」「当社グループ」は西日本高速道路株式会社とその子会社および関連会社を含めたグループ全体を表します。
 また、「高速道路機構」は、独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構を表します。インターチェンジは「IC」、ジャンクションは「JCT」、サービスエリアは「SA」、パーキングエリアは「PA」と略記します。

組織図 (NEXCO西日本、2015年7月現在)



関西支社 高速道路事務所(9) 管理事務所(1) 工事事務所(7)
 中国支社 高速道路事務所(9) 管理事務所(1)
 四国支社 高速道路事務所(4) 工事事務所(2)
 九州支社 高速道路事務所(9) 工事事務所(2)
 東京事務所

目 次

NEXCO西日本グループの事業 3 トップメッセージ 5



特集
1 高速道路の長期保全 9



特集
2 お客さまと地域に愛される SA・PAづくり 13



特集
3 高速道路ネットワークの整備 17

NEXCO西日本グループのCSR 21
 CSRの重要課題と取り組み状況 23
 コーポレート・ガバナンス 27

ステークホルダーとともに

- お客さま 29
- 社会 33
- 投資家・国民の皆さま 35
- グループ社員 36
- お取引先 37

より広い社会・未来への働きかけ

- 環境保全 38
- 社会貢献 41
- 財務報告 42
- 第三者意見・第三者意見をうけて 43
- 編集方針 44

グループ会社 (2015年7月現在)

連結子会社 26社

- 料金収受
 - 西日本高速道路サービス関西株式会社
 - 西日本高速道路サービス中国株式会社
 - 西日本高速道路サービス四国株式会社 (※交通管理も実施)
 - 西日本高速道路サービス九州株式会社
 - 西日本高速道路総合サービス沖縄株式会社 (※交通管理、点検・管理、保全作業も実施)
- 交通管理
 - 西日本高速道路パトロール関西株式会社
 - 西日本高速道路パトロール中国株式会社
 - 西日本高速道路パトロール九州株式会社
- 点検・管理
 - 西日本高速道路エンジニアリング関西株式会社
 - 西日本高速道路エンジニアリング中国株式会社
 - 西日本高速道路エンジニアリング四国株式会社 (※保全作業も実施)
 - 西日本高速道路エンジニアリング九州株式会社
 - 西日本高速道路ファシリティーズ株式会社 (※保全作業も実施)
- 保全作業
 - 西日本高速道路メンテナンス関西株式会社
 - 西日本高速道路メンテナンス中国株式会社
 - 西日本高速道路メンテナンス九州株式会社

- 不動産関連業務および人材派遣業務
 - 西日本高速道路ビジネスサポート株式会社
- SA・PAの運営・管理
 - 西日本高速道路サービス・ホールディングス株式会社
 - 西日本高速道路ロジスティックス株式会社
 - 西日本高速道路リテール株式会社
- 有料道路の運営・管理
 - 芦有ドライブウェイ株式会社
- 海外事業
 - NEXCO-West USA, Inc.
- ウルトラファインパブル関連事業
 - 株式会社Ligaric
- 橋梁補修技術の開発および工事・コンサルタント事業
 - 株式会社富士技建
 - 株式会社ドーユー大地
- 広告事業
 - NEXCO西日本コミュニケーションズ株式会社

持分法適用の子会社および関連会社 7社

- SA・PAの運営・管理
 - 沖縄道路サービス株式会社
- システムの開発・改良および運用管理
 - 株式会社NEXCOシステムズ
- 研究および技術開発
 - 株式会社高速道路総合技術研究所
- 料金収受機械保守
 - ハイウェイ・トール・システム株式会社
- 保険代理店業務
 - 株式会社NEXCO保険サービス
- トラックターミナルの運営
 - 九州高速道路ターミナル株式会社
- 海外事業
 - 日本高速道路インターナショナル株式会社

「100%の安全・安心」をいっそう追求し、 信頼される高速道路へ変革していきます。



西日本高速道路株式会社
代表取締役社長

石塚 由成



「100%の安全・安心」の いっそうの追求

お客さまに高速道路を快適にご利用いただくため、NEXCO西日本グループは、設立以来一貫して「お客さまの安全・安心」を最優先課題として掲げ、「100%の安全・安心」を目指して、日々、道路保全や交通安全対策に取り組んでいます。

一方、当社が管理する高速道路のうち、供用から30年以上経過した区間が全体の約35%（約1,200km）に達しており、また、大型車両の増加や冬季の凍結防止剤使用等による塩分の影響など厳しい環境条件下で、橋梁やトンネルなど主要構造物の老朽化や劣化が顕著になってきています。

そうした中で、高速道路の健全性を永続的に確保し、高速道路ネットワークの機能を将来にわたり維持していくため、当社を含むNEXCO3会社は、大規模更新・大規模修繕を実施する「高速道路の更新計画」を立案し、2015年3月、道路整備特別措置法に基づく更新事業の事業許可を受けました。この事業の円滑かつ着実な実施を図るため、当社内に「高速道路強化再生計画推進会議」を設置し、事業の具体的な進め方等について検討を重ねています。2015年度からは事業に着手し、関係機関との連携を図りながら着実な事業推進に取り組んでまいります。

同じく2015年3月、当社独自の高速道路の維持管理・更新等を着実に推進するための中長期的な取り組みの方向性を明らかにした「NEXCO西日本インフラ長寿命化計画（行動計画）」を策定しました。この計画のもと、予防保全の観点等から高速道路資産の点検・診断・対策を着実に実施し、トータルコストの縮減と確実な高速道路機能の維持を図るとともに、これらにより得られた情報を次の点検・診断等に活用する「メンテナンスサイクル」の継続的な発展につなげてまいります。

さらに、NEXCO3会社および有識者からなる「点検実施基準及び資格に関する検討委員会」の検討結果を踏まえ、2015年4月に点検実施基準の見直しを行い、信頼性向上を図りました。

また、高速道路の長期保全にあたっては、さまざまな劣化事象に対処できる専門技術者の育成もきわめて重要です。2015年6月には大阪府茨木市に体験型研修も実施できる「茨木技術研修センター（I-TR）」を整備し、専門技術者の育成強化に着手しました。今後もこれらの取り組みを通じて、「100%の安全・安心」をいっそう追求してまいります。

災害対応力の強化

高速道路は、大規模災害が発生した場合にも、その機能を短期間に回復し、被災地域の救命救助や支援物資輸送を支える緊急輸送路としての役割を果たさなければなりません。そのため、災害対応計画を継続的に

見直すなど、災害対応力の強化に努めています。

具体策の一例として、南海トラフ地震の被害を想定した資機材等の備蓄強化に取り組んでおり、2014年度は、災害時に一般電話が途絶した場合に備え、震度6強および津波浸水が想定される地域の各拠点に衛星携帯電話を配備しました。さらに、関係機関との総合的な協力体制を構築する観点から、当社事業エリアの全24府県と災害協力協定を締結しているほか、大規模災害時の交通確保と被災地支援等の連携協定を陸上自衛隊と締結しており、その具体的な連携内容の調整や合同訓練に取り組んでいます。2014年度は、地震によって路面に段差が発生したことを想定した段差補修訓練を関係機関と共同で実施しました。

また、近年増加傾向にある異常降雨や大雪への対応も課題であり、災害時におけるグループ一体となった迅速な応急復旧作業、一部区間での冬用タイヤ規制導入や除雪作業の強化などにより、通行止め時間の短縮に努めています。



防災訓練

SA・PAの 「お客さま満足施設」への変革

SA・PAの地域性などを踏まえた店舗のブランド化を進め、お客さまはもちろん、地域の皆さまにも愛される「お客さま満足施設」への変革に取り組んでいます。例えば、お徳のある食事と真心のこもった「おもてなし」を提供するエリアを「モテナス」と位置付け、当社グループ直営店を順次リニューアルしています。

トップメッセージ

また、全国のお客さまが立ち寄るSA・PAの特性を活かして、地域の皆さまとも連携しながら、観光情報を発信するイベントや特産品を活かしたメニュー開発などにも取り組んでいます。特に観光面では、高速道路ネットワークの強みを活かし、観光スポットを巡り旅行券などが当たる「お国じまんカードラリー」を22府県と連携し実施しており、2015年からは一部のSA・PAからもキャンペーンへの応募が可能となりました。

さらに、小さなお子さま連れのお客さまには、ベビーベッドなどを設けた大型トイレや授乳室などを整備しています。2014年12月には徳島自動車道上板SA(下り線)に、室内遊具などを備えたお子さま連れのお客さま向けの専門レストラン「かみいたキッズカフェ」が、当社のエリアでは初めてオープンしました。

今後もお客さまに満足していただける店舗展開、設備を多様化し、また地域の魅力を発信するような個性的なSA・PAづくりに取り組んでまいります。

道路ネットワークの整備

福岡県から鹿児島県に至る東九州自動車道では、九州全域の経済・産業の活性化への期待を受けて、循環型高速道路の完成が待望されています。2015年3月までに、行橋IC～みやこ豊津ICと豊前IC～宇佐ICが開通し、現在、残り区間の事業を推進しています。また、徳島自動車道では、2015年3月に鳴門JCT～徳島ICが開通しました。

また、渋滞の抜本的解決と、大規模災害の発生時においても道路サービスを間断なく提供し続けることを基本理念に、日本の産業と社会を支え続けてきた名神高速道路を多重化し、日本の大動脈である高速道路の信頼性を高めるべく新名神高速道路の整備を、2023年の全線開通に向けて全力で進めています。

新名神高速道路が橋梁で通過する大阪府高槻市の淀川河川敷「鶴殿ヨシ原」には、雅楽の演奏に用いられる筆策(ひちりき)用のヨシが自生しています。当社では、貴重なヨシの生育環境の保全を図るため、専門家による検討会を設置して、ヨシの生育状況などの調査を実施し



徳島自動車道 開通式典

ています。2014年度も環境保全に向けた各種調査や、ヨシの枯死の原因となる植物の除去などを実施しました。

今後もこうした調査などを通して、自然環境保全と新名神事業の両立を図りながら、「未来につなぐ信頼の道」としての整備を進めてまいります。

環境にやさしい高速道路づくり

当社グループでは、環境活動の基本理念「環境方針」を定め、「低炭素社会の実現」「循環型社会の形成」「自然と共生する社会の推進」の3つを重点テーマに、環境にやさしい道路づくりを推進しています。

2014年度は、次世代自動車(電気自動車やプラグインハイブリッド車)のさらなる普及に向け、急速充電インフラの整備に取り組み、2015年3月までに計107カ所の整備を完了しました。

経営改善の推進

2013年1月に経営層メンバー(民間企業経営経験者を含む)を中心に「経営改善推進会議」を設置し、民営化後の経営改善の成果を確認するとともに、今後取り組むべき経営改善について議論しています。

また、「高速道路事業アドバイザリー会議」を設置し、外部有識者の視点でご意見をいただいています。

この高速道路事業アドバイザリー会議でのご意見を踏まえ、経営改善推進会議における議論を「NEXCO西日本

の経営上の課題と取り組み」として取りまとめました。

さらに、2015年5月に、当社のこれまでの成果や今後の課題等を取りまとめて、国土交通省が設置した外部有識者からなる「高速道路機構・会社の業務点検検討会」に報告しています。

今後も、経営改善の推進に向けた議論を進めてまいります。

こうした事業遂行のすべての基盤となるのがコンプライアンスです。そのために「NEXCO西日本グループ行動憲章」を定め、コンプライアンス違反を起こさない・許さない職場づくりに努めています。

また、国連グローバル・コンパクトの人権・労働・環境・腐敗防止に関わる10原則を支持し、2009年からその活動に参加しています。

今後も、「お客さまの満足度を高め、地域の発展に寄与し、社会に貢献する企業グループを目指す」というグループ理念を実現すべく、当社グループを取り巻く環境の変化に対して、常に業務の見直しを行い、進化し続けてまいります。



ステークホルダーの皆さまには、本レポートや当社グループの今後の活動に対して、忌憚のないご意見を賜りますよう、お願い申し上げます。

2015年7月

西日本高速道路株式会社
代表取締役社長

石塚由成

国連グローバル・コンパクトの10原則とグループ行動憲章の対応関係

		国連グローバル・コンパクト	グループ行動憲章
人権	原則1	企業は、国際的に宣言されている人権の保護を支持、尊重し、	第5章(情報・資産) 3. 個人情報保護 第6章(5つのステークホルダー) 1-1. お客さまの安全を第一、2-2. 海外事業における現地の文化・慣習の尊重、 2-3. 高齢者や体の不自由な方に配慮した事業活動、 4-2. 人権・多様性・人格・個性の尊重、差別・ハラスメントを許さない職場環境
	原則2	自らが人権侵害に加担しないよう確保すべきである。	
労働	原則3	企業は、組合結成の自由と団体交渉の権利の実効的な承認を支持し、	
	原則4	あらゆる形態の強制労働の撤廃を支持し、	第6章(5つのステークホルダー) 4-2. 差別・ハラスメントを許さない職場環境、 4-4. 安心して働ける福利厚生、安全で衛生的な職場環境
	原則5	児童労働の実効的な廃止を支持し、	
環境	原則6	雇用と職業における差別の撤廃を支持すべきである。	
	原則7	企業は、環境上の課題に対する予防原則的アプローチを支持し、	
	原則8	環境に関するより大きな責任を率先して引き受け、	第6章(5つのステークホルダー) 2-4. 環境負荷の低減、2-5. 生物多様性の保全
腐敗防止	原則9	環境に優しい技術の開発と普及を奨励すべきである。	
	原則10	企業は、強要と贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗の防止に取り組むべきである。	第2章(法令遵守) 1. 公平・清廉を旨とした行動、2. 政治・行政との正常かつ健全な関係、3. 業務に関する不正な介入の排除、4. 反社会的勢力の排除 第3章(自由・公正) 2. 公正かつ透明な手続き、3. 業務上の立場を利用して私利私欲を図る行為の排除 第5章(情報・資産) 4. 資産の適正な管理、他者の利益の不侵害 第6章(5つのステークホルダー) 3-2. 積極的な情報開示による透明性の高い経営、 5-1. 適正な契約相手方の選定及び法令遵守、5-2. 公正な受注活動

お客さまからの期待

安心して高速道路を利用できるように、老朽化対策を万全にしたい

国民の皆さまからの期待

国民の資産でもある高速道路をずっと使えるように維持してほしい

私たちの取り組み

道路保全の高度化と効率化を進め、安全で安心な高速道路を提供

体制の整備と人材育成

将来に渡って健全な高速道路を保持するための持続可能な業務基盤・体制づくり・人材育成を進めています。

予防保全・大規模更新

ライフサイクルコストを最小化する予防保全、老朽化を抜本的に解決する大規模更新工事を実施します。

技術開発の推進

点検・診断の効率化と信頼性向上を目指して、新しい工法の開発に取り組んでいます。



撮影した画像から橋梁のひび割れを発見するauto CIMA System



プレキャストPC床版への取り替え工事

● 取り組みを管理するための指標

快適走行路面率 **96%**

※ 快適に走行できる舗装路面の車線延長比率

大規模更新工事では、対面交通規制などにより、交通影響の軽減を図ります。

保全事業システムの流れ



体制の整備と人材育成

高速道路を確実に補修する、保全事業システム^{*}の構築を推進しています。

高速道路を将来に渡って健全な状態に保持していくために最も大切なことは、点検の結果に基づき、いつ、どのような対策を実施するか、または監視を行っていくかを総合的な観点から判断し、そして確実に実行することへ繋げていくことです。

これを実現するためには、業務システムの整備と技術者の育成が重要な鍵を握ります。

NEXCO西日本の進める保全事業システムでは、一連の業務の手順やルールを明確にして、そのサイクルが途絶えることなく継続される業務システムの整備を進め、早期に実務定着するよう取り組んでいます。

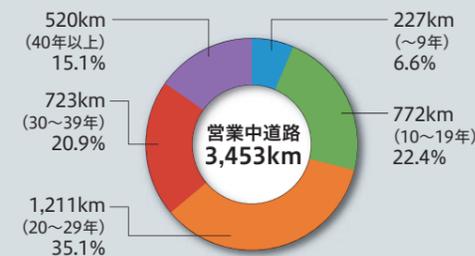
また、当社グループ内の子会社とともに協働する体制づくりを進める一方、今年度オープンした茨木技術研修センターを核に、劣化損傷した実橋梁などを設置し、基礎知識の机上学習だけでなく、点検から診断を実体験することを通じて、損傷要因の体系的理解の習得が行える研修を行っています。

^{*} 当社グループが自ら行うべき点検・診断・措置・記録の一連の業務サイクル

POINT 老朽化が進む高速道路

供用後の経過年数の増加や、大型車交通量の増加とともに、車両の総重量の増加、積雪寒冷地での凍結防止剤の散布や短時間異常降雨の増加などの厳しい使用環境下で、高速道路には、建設時には想定されなかった劣化が生じています。

高速道路の経過年数 (2015年3月末現在)



増加する大型車両

老朽化の要因



短時間異常降雨



凍結防止剤の散布

予防保全・大規模更新

大規模更新・大規模修繕計画を着実に実行していきます。

高速道路ネットワークの機能を長期にわたって健全に保つため、高速道路本体構造物を再施工する大規模更新や予防的な観点からの大規模修繕を実施します。

2015年3月には、計1.1兆円の大規模更新・大規模修繕を実施する更新計画について国土交通省から事業許可を得ました。橋梁の床版を耐久性の高いプレキャストPC床版に取り替える工事や、トンネル構造の安定性を向上させる逆アーチ状のインバート(底部)を設置する工事などを実施します。

NEXCO西日本の更新計画

分類	区分	項目	延長	事業費
大規模更新	橋梁	床版	98km	5,669億円
		桁	12km	965億円
	小計		6,635億円	
大規模修繕	橋梁	床版	111km	456億円
		桁	37km	560億円
	土構造物	盛土・切土	13,820カ所	2,463億円
	トンネル	本体・覆工	46km	1,107億円
小計		4,586億円		
合計			11,221億円	

POINT

重量超過等の違反車両への取り締まりを徹底しています。

大型車交通や車両総重量の増加に加え、重量超過等の違反車両は、道路の劣化を進行させる要因となっています。

そこで、従来から実施している専門部隊による取り締まりや措置命令に加え、積載物の軽減や通行の中止など厳格な措置命令を実施するとともに、特に常習的・悪質な違反者に対しては警察への告発など厳罰化を図っています。

専門部隊による取り締まりを強化



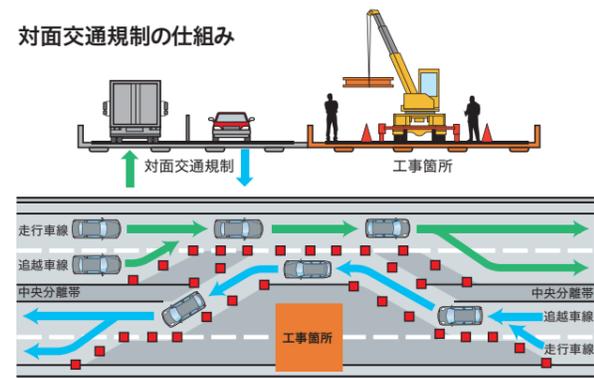
予防保全・大規模更新

技術開発の推進

渋滞を軽減するため、車線運用方法や工期短縮などの工夫を実施します。

高速道路の更新工事では、通行規制や車線規制による渋滞の影響が予想されます。そのため、路線の交通量や利用状況なども考慮し、渋滞を軽減し工期を短縮すべく、工事や工法開発、車線運用方法などを工夫します。

また、各種メディアやウェブサイト、アイハイウェイ、ポスター、横断幕等を活用した事前広報を徹底し、社会的影響の軽減に努めます。



アイハイウェイ

リーフレット

技術開発の推進

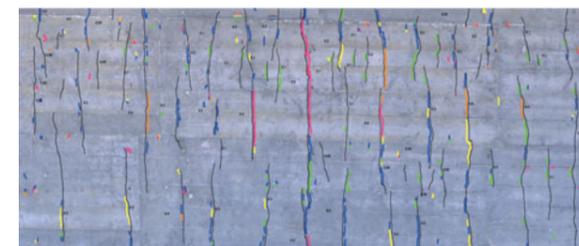
点検から補修に至る各段階での高度化・効率化を、グループ一丸で追求します。

高速道路の点検から補修に至る業務の効率性、構造物診断の精度、補修による長期耐久性の向上を図るため、当社グループでは、将来実現すべき姿を設定し、それらを具現化するための技術開発を体系的に実施しています。

◆ 実用化済みの主な点検技術

コンクリート壁面高解像度画像撮影システム (auto CIMA System)

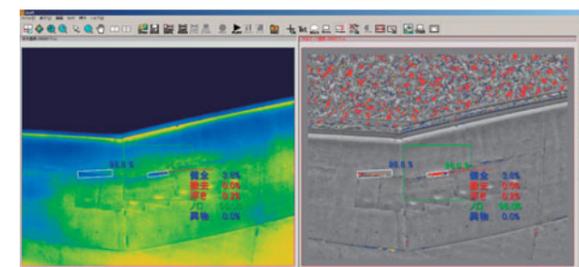
高解像度のデジタルカメラで橋梁床版の下面等を撮影し、撮影画像からひび割れを自動で判別、図化する技術です。接近が困難な高橋脚や長大橋等であっても、遠方からの撮影で状態を確認することができます。



auto CIMA Systemで検出したひび割れ

赤外線調査トータルサポートシステム (Jシステム)

コンクリートの浮き・剥離などの変状部分は、健全部分とコンクリートの表面温度が異なる性質を利用し、赤外線カメラを用いて変状部分を感知する技術です。



Jシステムでの分析画面

◆ 開発中の主な技術のテーマ

- ・高速走行しながら、トンネル覆工の変状を検知する技術
- ・点検時に現場からアクセスできるデータベース
- ・センサーによるモニタリングデータから、将来起こりうる変状を予測する技術
- ・構造物の耐久性を高める技術
- ・工期を短縮し社会への影響を緩和する技術

WEB掲載情報

高速道路の長期保全
 高速道路の長期保全に向けた当社の各種取り組み
 (「インフラ長寿命化計画」「高速道路の更新計画」「高速道路の点検実施基準」)を紹介しています。

社外コメント

今こそメリハリの効いたメンテナンスを

NEXCO西日本の高速道路が安全で安心なインフラであり続けることは、我々の生活や産業を支えるうえで不可欠です。そのためには、高速道路網を構成する橋梁、トンネル、舗装、土工構造物、附帯設備など、あらゆる施設・設備の安全性を担保することが重要であり、しっかりとしたメンテナンスが必要です。これまで、NEXCO西日本は組織的に高度なメンテナンスに取り組んでいますが、今後の我が国の社会情勢を鑑みると、メンテナンス手法の継続的改善が求められます。



東京工業大学 大学院理工学研究科 土木工学専攻 教授 岩波 光保様

また、道路法の改正により義務付けられた5年に一度の近接目視点検への対応など、メンテナンスにかかる人的、金銭的な負担は増すばかりですが、この負担から多くのことを学び、これを次のメンテナンスに活かしていくサイクルを是非回してほしいと思います。例えば、近接目視に代わる安価で効率的な点検技術や土中や水中などの不可視部分に適用可能な調査・モニタリング技術の開発などです。

必要なコストや手間暇はかけつつも、最大限の効果が得られるメリハリの効いたメンテナンスをNEXCO西日本が先導的に推し進めていくことを期待しています。

社員コメント NEXCO西日本

点検から補修までのメンテナンスサイクルの高度化・効率化に努めてまいります

道路構造物の変状は、造られた時点の設計基準や、材料や工事方法などの施工基準、開通後の使用環境により、その進行速度が異なります。点検・診断・措置を決定するうえで記録・蓄積された一連の情報が重要な所以であり、高速道路の安全・安心を守る私達は、この保全事業システムの下、適切な時期に予防保全や大規模更新などの措置を講じてまいります。あわせてこの保全事業システムの中でも、点検・診断・措置の段階で、これに携わる人材の育成や、必要な技術の開発に弛まぬ努力を続け、高度化・効率化を進めてまいります。



保全サービス 事業部長 北田 正彦

大規模更新・大規模修繕を実施するうえでは、皆さまへのご迷惑を出来る限り少なくする工夫と、丁寧なご案内に努めてまいりたいと考えておりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

(注) 所属・役職は、2015年3月時点のものです

お客さまからの期待

高速道路の旅を、もっと便利に
もっと快適にしてほしい

高速道路で長距離を移動する際には、必ず立ち寄るSA・PA。不便でサービスがよくないと旅行自体も面倒になるし、もっと便利・快適な場所になってほしい。

地域の皆さまからの期待

高速道路利用者と地域をつなぐ
拠点になってほしい

大都市から離れた地方にとって、高速道路のSA・PAは、全国の人が立ち寄る貴重な場所。そんなSA・PAを地域活性化の拠点としてもっと活用させてほしい。

私たちの取り組み

地域の魅力を取り入れながら、高速道路の旅をさらに楽しく

さらに利用しやすく

高齢の方、障がいをお持ちの方、外国の方、小さなお子さま連れの方など、すべてのお客さまが利用しやすい環境整備を進めています。

名物・名所の窓口

観光情報を発信するブースを設けたり、特産品を生かしたメニューを開発するなど、沿線地域の魅力の発信に努めています。

にぎわいの創出

SA・PAのブランド化を進め、「くつろぎ、楽しさ、にぎわい」を実感していただけるバラエティに富んだ施設展開や独自サービスを強化しています。

● 取り組みを管理するための指標

ウェルカムゲート設置数
5 力所 (累計 **65** 力所)

Wi-Fiサービス提供箇所
146 力所



高速道路の外からもSA・PAに立ち寄れるウェルカムゲート



さらに利用しやすく

にぎわいの創出

お得な統一メニューと笑顔のおもてなしでお迎える「モテナス」へのリニューアルを進めています。

NEXCO西日本グループが直接運営するエリアを店舗ブランド「モテナス」へ順次リニューアルしています。「モテナス」店舗では、「モテナスランチ」「モテナススイーツ」などお徳感のある食事と、真心のこもった「おもてなし」を提供しています。

2014年度は、8カ所のPAを「モテナス」にリニューアルし、計23カ所となりました。今後も、お客さま満足施設を目指し、エリアの魅力向上に取り組んでいきます。

2014年度にリニューアルした店舗一覧 ★:モテナス店舗

道路名	SA・PA名
名神高速道路	菩提寺PA(上り線)★
中国自動車道	赤松PA(上り線)★
九州自動車道	吉志PA(上り線)★
山陽自動車道	道口PA(上り線)★
山陽自動車道	淡河PA(上り線)★
中国自動車道	王司PA(上り線)★
中国自動車道	美東SA(上り線/下り線)
山陽自動車道	沼田PA(上り線)★
名神高速道路	黒丸PA(下り線)★

名物・名所の窓口

にぎわいの創出

地域の魅力を生かしたメニューを競うコンテストを実施しています。

お客さまに地域に伝わる料理、地域の食材を楽しんでいただくため、「ご当地食材」を使用したメニューで競い合うコンテストを2010年度から開催しています。

4年目となる2014年度は「西イチグルメ決定戦」を開催しました。155店舗が参加して趣向を凝らした新メ

ニューを開発・販売し、関西・中四国・九州の3ブロックでの大会で勝ち抜いた7店舗が、西イチグランプリを競い合いました。

2015年度も、地域の食材や特色を活かしたさまざまなイベントを実施します。



「西イチグルメ決定戦」の様子

社員コメント

NEXCO西日本リテール

「おもてなしの心」で、楽しく気持ちよく
お買い物していただける店づくりを

私は、ショッピングコーナーでの接客・レジの業務や商品の受発注業務、スタッフの教育などを担当しています。お客さまにワクワクした気持ちでお買物を楽しんでいただけるように、見やすいディスプレイやわかりやすいPOPを工夫したり、お花を飾りつけたり、日頃からスタッフ全員で明るくきれいな店づくりに取り組んでいます。「商品が見やすいですね」「お花のいい香りがしますね」などお客さまからお声掛けいただくことが、スタッフのモチベーションアップに繋がっています。



名神高速道路
草津PA(下り線)
売店スタッフ
苗村 美樹

これからも、お客さまのニーズにお応えできるよう、新たな商品の提供や紹介方法をさらに工夫するなど、真心のこもった「おもてなし」をご提供できるよう、いっそう取り組んでまいります。高速道路をご利用の際は、ぜひお立ち寄りください。

「おもてなし」の心で
お客さまをお迎え



モテナスランチの
新メニュー「満腹セット」(880円)

2014年度西イチ決定戦でグランプリを受賞した
「佐賀の恵み玉手箱御膳〜有田焼の器にのせて〜」
(長崎道 川登SA 上り線)



さらに利用しやすく

お子さま連れのお客さま向けの設備・サービスを多様化させています。

授乳室や、親子で利用できる親子トイレ、ベビーベッドを設けた大型トイレブースなど、小さいお子さま連れのお客さまに配慮した設備の整備を進めています。

2014年12月にリニューアルオープンした徳島自動車道 上板SA(下り線)には、室内遊具や親子トイレを備えた、当社のエリアでは初となるお子さま連れのお客



親子トイレ



かみいたキッズかふえ(徳島自動車道 上板SA 下り線)

さま向けの専門レストラン「かみいたキッズかふえ」がオープンしました。

2015年度は、春の交通安全キャンペーンで家族連れ向けのイベントを実施します。



お客さまの声より
授乳室が整備され、子連れでも安心してドライブに出かけられます。

子どもができてからは、遠出する際は、数時間ごとの子どもの授乳やオムツ交換、休憩の時間を計算しながらの移動となります。高速道路のSAにある授乳室を利用すれば、これらの作業が移動中にできるため、目的地を高速道路のICの近くに設定し、一般道ではなく、高速道路を多用するようになりました。

いつもよく利用するNEXCO西日本のSAでは、オムツ替えやミルクをつくるための調乳器やお湯、流し台、エアコンが完備された授乳室が設置されていて、子どもにぐずられることが少なくなりました。子連れだと出かけるのが難しいと思っていましたが、いつも清潔で快適な授乳室が提供されているおかげで、安心して出かけられます。通行料金を支払った以上に満足度の高いドライブができ、とても感謝しています。

維持管理費などを考えると、小さなSAやPAには設置が難しいかもしれませんが、これからもこうした授乳室が増えていくことを願ってやみません。スタッフや関係者の皆さまありがとうございます。これからもよろしくお願いいたします。



(左)授乳室、(右)調乳器

名物・名所の窓口

にぎわいの創出

地域の魅力や特色を発信する「地域に開かれたSA・PAづくり」に取り組んでいます。

SA・PAを訪れるお客さまに地域の魅力や特色を発信するイベントの実施やスペースの整備に取り組んでいます。

例えば、2015年4月からは、瀬戸内7県で構成する瀬戸内ブランド推進連合と連携し、中国自動車道 美東SA(上下線)、山陽自動車道 淡河PA(上り線)で、同連合の観光情報サイト「瀬戸内Finder」から、おすすめの瀬戸内の風景写真を展示する写真展を開催しています。同連合と実施している旅行企画「瀬戸内周遊ドライブパスPRキャンペーン」の一環として6月末まで実施しているもので、期間中は瀬戸内ブランド認定商品なども展示し、瀬戸内の魅力を伝えています。

また、2014年11月に「モテナス」にリニューアルした中国自動車道 赤松PA(上り線)では、地元で採れた新鮮な野菜や果物などを取り揃えた「野菜マルシェ」を開設しています。



瀬戸内写真展(山陽自動車道 淡河PA 上り線)



瀬戸内ブランド認定商品「レモどら」

野菜マルシェ(中国自動車道 赤松PA 上り線)



社外コメント

広域的な高速ネットワークが、「瀬戸内」の魅力浸透を大きく後押ししてくれています

多目的スペースでの情報発信については、瀬戸内域内での交流や、瀬戸内への誘客を図る観点から、ダイレクトに観光客の皆さまにPRすることができる効果的な方法であると考えております。また、推進連合で認定している瀬戸内ブランド商品等を積極的にSA・PAで展開していただくことで、お客さまの瀬戸内ブランドに接する機会が増え、瀬戸内のブランド化に大きく貢献いただいていると考えております。実際に私たちが実施しているアンケートでは、「SA・PAで『瀬戸内ブランド』を知った」という多くの声が寄せられました。



瀬戸内ブランド推進連合*理事
広島県商工労働局
海の道プロジェクト・
チーム担当課長
村上 隆宣様

今後とも、御社との連携を通じて瀬戸内に多くの観光客の皆さまにお越しいただき、瀬戸内の魅力を感じていただければと思います。何より御社には、瀬戸内ブランドの確立に向け、欠かすことのできないパートナーとして、末永くお付き合いいただけることを願っています。

*瀬戸内海に面した7県が、2014年に設立した団体。

POINT 充電インフラの整備を通じて、環境にやさしい次世代自動車の普及に貢献

政府が掲げる低炭素社会の実現にあたり、次世代自動車(電気自動車やプラグインハイブリッド車)の普及は必要不可欠であるといわれています。

高速道路の利便性向上、地域への貢献および次世代自動車の普及・技術発展の実現に向けいっそうの推進が図れ、高速道路の価値最大化に寄与することを目的とし、ジャパンチャージネットワーク(株)との業務提携を結び、協働により、次世代自動車用急速充電インフラの整備に取り組んでいます。

2014年度より、新たに84カ所*の整備を進め、2015年3月末時点で累計107カ所に設置しております。

*ハイウェイオアシス(4カ所)への設置を含む



2015年3月末現在の設置数
107カ所

次世代自動車用急速充電設備(中国自動車道 西宮名塩SA 下り線)

POINT 2年目を迎えた「お国じまんカードラリー」がさらに充実

高速道路ネットワークを活用した地域活性化の取り組みのひとつとして、西日本各府県と連携した広域観光連携キャンペーン「お国じまんカードラリー」を実施しています。

2014年は、19府県が選ぶ一押しスポットに設置された応募券付き「GO! JIMANカード」を集めて応募すると、抽選で旅行券や地域の名産品などが当たるキャンペーンを実施し、5,000名以上の方からご応募をいただくなど、たいへん好評を博しました。

2015年は、一部のSA・PAでも応募可能とするなどの改善をしつつ、新規参加の3県を加えた22府県と連携してキャンペーンを実施しております。



(右)お国じまんカード
(左)告知ポスター

特集 3 高速道路ネットワークの整備

お客さま・地域の皆さまからの期待

高速道路にアクセスできない地域をなくして、使いやすくしてほしい

道路沿線の皆さまからの期待

説明会等をしっかりと行い、生活環境や自然環境に配慮しながら工事をすすめてほしい

私たちの取り組み

各地で早期開通を目指して、地域と対話しながら整備促進



取り組みを管理するための指標

新規開通路線延長※
3 区間 **39** km

スマートIC新規設置箇所※
3 カ所

※ 2014年度実績

凡例 (2015年7月末現在)
 ■ 営業中
 ■ 営業中(四車線化事業中)
 ■ 事業中
 ■ 事業中(新直轄方式で整備する区間)
 — その他の道路
 (注) 事業中のIC等の名称は仮称

高速道路を身近に

未整備区間を整備し、高速道路が途絶している区間(ミッシングリンク)の解消を推進しています。

ネットワークの多重化

名神高速道路を多重化し、渋滞の抜本的解消と、災害時のネットワーク維持を実現します。

事業地域との共生

各関係機関や沿道地域の皆さまと協議を重ね、ご理解をいただきながら事業を進めています。



東九州道 行橋IC～みやこ豊津IC 開通式



東九州道 豊前IC～宇佐IC 開通記念マラソン大会



徳島道 鳴門JCT～徳島IC 開通パレード

高速道路を身近に

事業地域との共生

途絶している未整備区間(ミッシングリンク)を結び、高速道路の機能を高めます。

◆ 東九州道: 行橋IC～みやこ豊津IC、豊前IC～宇佐IC

東九州自動車道は、福岡県北九州市を起点として、大分・宮崎・鹿児島各県を結び、鹿児島市に至る延長約436kmの高速道路です。沿線では、企業誘致計画が進められており、地域産業の発展や雇用創出の促進が期待されます。なかでもアジアをリードする自動車の一大生産拠点をめざす北部九州では、循環型高速道路の完成が待望されています。また災害時の代替

今後の開通予定※1

区間	延長	年度
① 新名神 城陽JCT～八幡JCT	4km	2016年度
② 東九州道 椎田南～豊前※2	7km	2016年度
③ 新名神 高槻JCT～神戸JCT※3	40km	2018年度
④ 高松道 鳴門～高松市境(四車線化)	52km	2018年度
⑤ 長崎道 長崎芒塚～長崎多良見(四車線化)	8km	2018年度
⑥ 徳島道 徳島東～徳島JCT	4km	2019年度
⑦ 播磨道 播磨新宮～山崎JCT	12km	2020年度
⑧ 舞鶴若狭道 福知山～綾部(四車線化)	10km	2020年度
⑨ 舞鶴若狭道 綾部PA～舞鶴西(四車線化)	5km	2020年度
⑩ 湯浅御坊道路 御坊～有田(四車線化)	19km	2021年度
⑪ 新名神 大津JCT～城陽JCT	25km	2023年度
⑫ 新名神 八幡JCT～高槻JCT	10km	2023年度

(注) 事業中区間のIC・JCT名称は仮称

※1 高速道路機構との協定に基づく

※2 会社努力目標は2016年春

※3 会社努力目標は2016年度

ルート確保や緊急搬送など、暮らしの安全にも重要な役割を果たすものです。2014年12月に行橋IC～みやこ豊津IC(延長7.4km)、2015年3月に豊前IC～宇佐IC(延長21.1km)が開通し、合計で344kmが開通したことになります。

◆ 徳島道: 鳴門JCT～徳島IC

2015年3月に徳島自動車道の鳴門JCT～徳島ICが開通しました。当区間は南海トラフ地震など震度6強で津波浸水深が3～4mに達した場合でも、高速道路の道路機能を確保できる設計となっています。災害発生時の復旧作業や緊急輸送路、また防波堤や避難場所としての機能を有し、地域の防災力向上に貢献します。

スマートICの今後の設置予定※1

スマートIC名称	設置数	年度
夢前(中国道)、北熊本(九州道)、城南(九州道)	3カ所	2015年度
山之口SA(宮崎道)、由布岳PA(大分道)、門川南(東九州道)	3カ所	2016年度
木場(長崎道)、小城PA(長崎道)、福山SA(山陽道)、桜島SA(九州道)、沼田(山陽道)、別府湾(上り線)(大分道)	6カ所	2017年度
宝塚北※2(新名神)、和歌山南(阪和道)、人吉球磨(九州道)	3カ所	2018年度
国富(東九州道)、湯田PA(中国道)、中山(松山道)	3カ所	2019年度
新名神大津(新名神)	1カ所	2023年度

(注) スマートIC名称および未開通区間の道路名称は仮称

※1 高速道路機構との協定に基づく

※2 事業中の本線と同時供用

POINT 高速道路は、地域の皆さまの生活や観光産業等の活性化に貢献しています。

例えば、宍道JCT～斐川IC～出雲ICが開通した山陰自動車道では…

安全で安心できる暮らしへ

山陰自動車道は斐川の河川氾濫区域に含まれていないため、河川氾濫時の緊急輸送道路となるほか、原子力災害に備えた島根県広域避難計画で避難ルートに指定されています。また、松江市、雲南市から出雲市内への緊急搬送件数は、開通前に比べて約3倍に増加。傷病者の負担軽減に貢献しています。

観光産業が活性化されました

2013年には約800万人という過去最高の参拝者数を記録した出雲大社。観光バスや自家用車の多くが出雲ICを利用し、移動時間が短縮するとともに、周辺の混雑緩和に貢献しました。また出雲大社周辺には多くの観光施設があり、開通後は各観光施設間へのアクセスが向上し、周辺観光の促進につながりました。



ネットワークの多重化

事業地域との共生

日本の新たな大動脈として、新名神の2023年全線開通を目指しています。

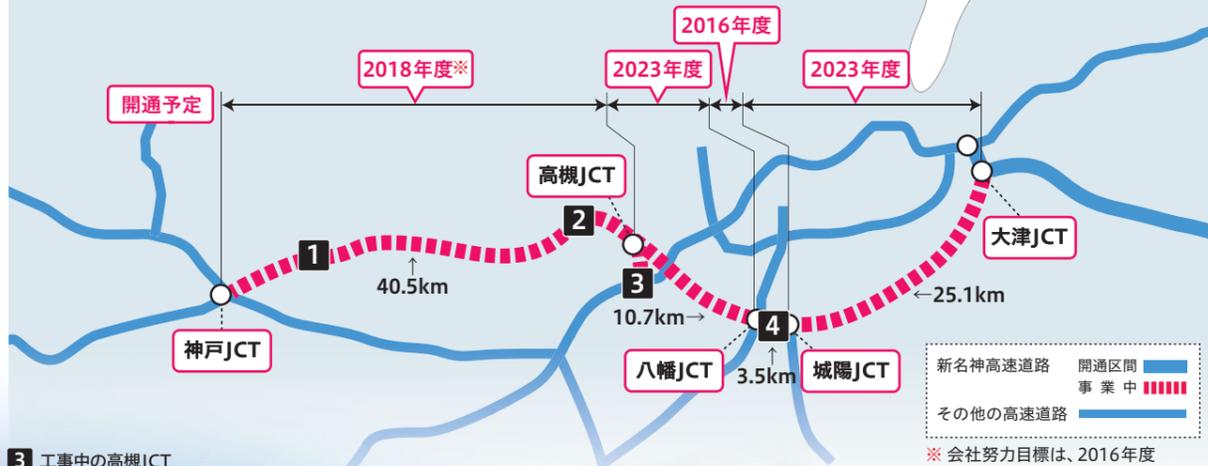
これまで、日本の産業と社会を支え続けてきた名神高速道路を多重化し、日本の大動脈である高速道路の信頼性を格段に高めるべく、「未来につなぐ信頼の道」新名神高速道路の整備を進めています。



1 工事中の武庫川橋



2 工事中の箕面トンネル



3 工事中の高槻JCT



4 工事中の木津川橋

◆ 高槻JCT～神戸JCT

工事の最盛期を迎えています。
兵庫県では、世界で初めてバタフライウェブを採用したエクストラードズド橋(武庫川橋)の施工が行われております。

大阪府域に位置する、区間最長の箕面トンネル(上り線4,994m、下り線4,979m)においては、2015年5月末現在の掘削延長は、上り線2,539m、下り線2,756mです。

◆ 城陽JCT～八幡JCT

工事の最盛期を迎えています。
木津川橋の下部工につきましては、渇水期に河川の切り替え工事を行い、工事を実施しています。
一部、上部工工事にも着手しています。

◆ 大津JCT～城陽JCT・八幡JCT～高槻JCT

地元設計協議を順次実施しています。一部、用地取得に着手するなど、地元の皆さまのご理解をいただきながら、着実に事業を進めています。



地元協議の様子(左:事業説明会、右:境界立会)

事業地域との共生

事業地域にある筆築用ヨシの生育環境の保全を図っています。

新名神高速道路の橋梁が横過する淀川河川敷「鶴殿ヨシ原」には、雅楽で演奏される筆築(ひちりき)の蘆舌(ろぜつ/吹き口に取り付ける薄片で西洋管楽器のリードに相当)に用いられる良質なヨシが採取されている箇所があります。

NEXCO西日本は植物学や地下水の専門家などから構成される検討会を設置し、ヨシの生育環境や生態に関する調査を実施し、知見を深めています。また、害草・害虫の駆除や保全を目的とした「ヨシ原焼き」を高速道路開通後も行えるよう、無人ヘリコプターなどを用いた調査を2014年2月に実施したほか、枯死の原因となる植物「カナムグラ」の除去を2014年3月から4月にかけて実施しました。

今後も、調査・試験を継続して実施するとともに、情報を随時発信し、十分な説明に努めていきます。



筆築(ひちりき)

工事が最盛期を迎えるなかで、現場見学会なども積極的に実施しています

新名神高速道路は日本の新たな大動脈として、2023年の全線開通を目指して現在全線で事業中です。このうち高槻JCT～神戸JCT間は2016年度の開通目標に向け、全区間で工事が最盛期を迎えています。昨年12月からは「なるほど!高速道路発見」と題し、一般の方を対象とした工事現場の見学会を半年で3回開催しました。



新名神大阪西事務所 所長 兼澤 秀和

当事務所管内は高槻JCTから北摂の山間地域を主なルートとしているため、全体の建設状況が地域の皆さまの目に触れる機会が少ない現場なので、工事現場の見学者さまからは「工事規模の大きさに驚いた」「こんなに進んでいるのは知らなかった」「早く利用したい」といったお言葉をいただきます。今後も、重大事故や巨大災害時の代替ルートとして、また通過交通の円滑化のためにも、一日でも早い開通を目指して関係者一同一丸となって取り組んでまいります。



検討会の様子

WEB掲載情報

事業評価委員会議事(2014年度)
有識者の皆さまに、第三者の立場から、事業中・開通後の高速道路について、ご意見をいただいています。

なるほど!高速道路発見
一般の方を対象とした、高速道路の建設現場を公開する見学会の申し込みサイトです。

新名神高速道路 事業中区間の概要
各工事事務所が発行している広報誌などを掲載しています。

スローガン

みち、ひと・・・未来へ。

安全・安心・快適な高速道路が結ぶ、人と人、地域と地域。

夢ひろがるアイデアと、心のこもったサービスで新しい出会いや喜びを生み出します。

NEXCO西日本は、100年先の未来に向け技術の革新と新たな価値の創造に挑み続けます。

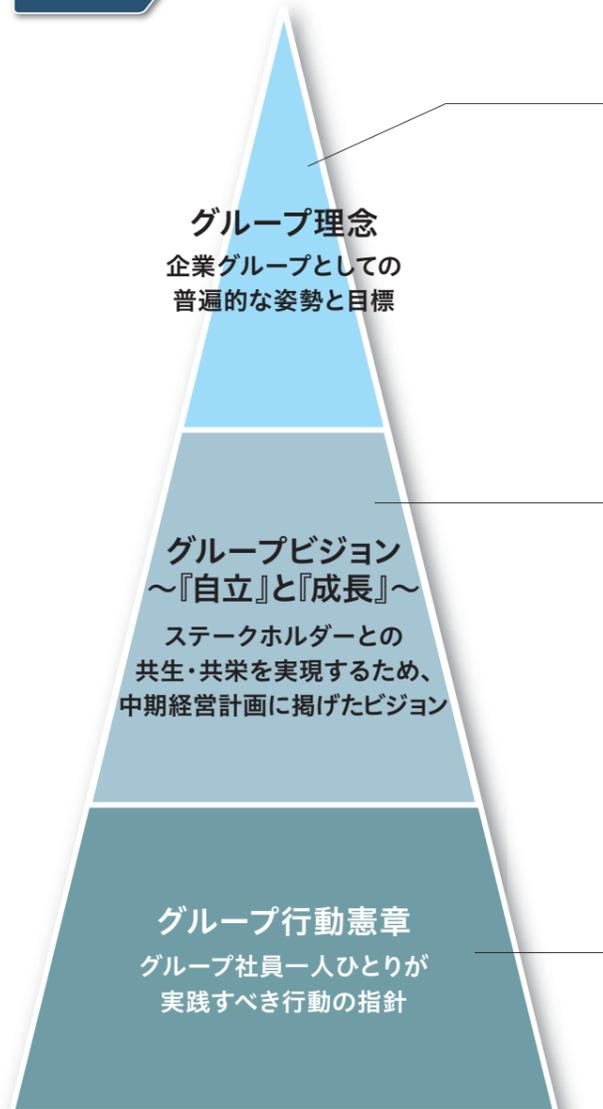
■3つの目指す姿

高速道路に変わらぬ安全と、
これまでにない感動を

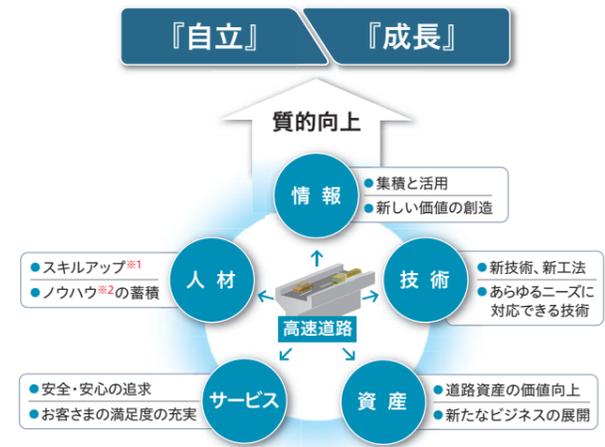
地域を愛し、
地域とともに生きる

たゆまぬ技術の革新で、
100年先の未来へ

理念体系



私たちはお客さまの満足度を高め、
地域の発展に寄与し、
社会に貢献する企業グループをめざします。
当グループは、高速道路の重要な社会インフラとしての
使命を果たし、常に全ての活動において企業の社会的
責任(CSR)の遂行を共通の目標とします。



※1 訓練して技能を身につけること ※2 専門的な技術や技術競争力の基となる情報・経験

NEXCO西日本グループ行動憲章(総論) (2012年12月改訂)

1. 法令や社会のルールを遵守し、いかなる場合であっても、決してこれに反する行為は行いません。
2. 自由で活発な創造的企業活動を、公正を旨として行います。
3. 一人ひとりがグループにおける自らの役割と権限を自覚し、その責任を全うするため、全力を尽くします。
4. 企業活動における情報の重要性を踏まえて、情報の入手と活用及び適正な取り扱いを常に心がけて行動します。
5. 5つのステークホルダー(お客さま、社会、投資家及び国民の皆さま、グループの社員、お取引先)の信頼に応えます。

ウェブサイト「企業行動憲章」全文：
http://corp.w-nexco.co.jp/corporate/management_strategy/conduct.html

活動方針

中期経営計画2015のもと、CSRを实践

当社グループは、2011年度から2015年度までの5カ
年を対象とした中期経営計画2015を策定しました。
これは、いかなる厳しい環境・情勢下においても、社会
に対してさらに大きく貢献する企業集団へと進化する
ため、グループ全体の取り組みの方向性を示したも
のです。

グループ理念を表すスローガンと経営ビジョンを具体
化した中期経営計画2015の実現に向けて、社員一人
ひとりが行動憲章を共有しグループ一体となってCSR
を实践していきます。

ウェブサイト「中期経営計画」：
<http://corp.w-nexco.co.jp/corporate/plan/>

ステークホルダーを起点としたCSRマネジメント



5つのステークホルダーへの約束 (2011～2015)

- お客さま**
 - 時間、安全、信頼、出会い、安らぎ等の新たな価値を提案し提供します
- 社会**
 - 共生社会の一員として、地域と積極的に連携します
 - 環境を重視して自然との共生を図ります
- 投資家・国民の皆さま**
 - 高速道路のネットワークバリューを創造し増大させます
 - 幅広い外部との交流により高速道路の未来の可能性を追求します
- グループ社員**
 - 自己と会社の持つ潜在能力やモチベーションを発揮する機会を提供します
 - 高速道路の設計から保守に至る一貫した総合技術グループになります
- お取引先**
 - 互いを尊重し、透明で公正な関係を構築します
 - 相互に協力してお客さまの満足度を高め、地域の発展に寄与し、社会に貢献します

CSR活動方針

- ① ステークホルダーとの対話を促進
経営の透明性を確保し説明責任を果たすとともに、ステークホルダーとの対話と交流を促進します。
- ② 期待を事業活動に組み込み
ステークホルダーの期待を事業活動のプロセスに組み込み、本業で企業としての責任を果たします。
- ③ 社会の持続的発展に貢献
これまで培ったノウハウや資源を活かして、社会が抱える課題解決に取り組み、事業の創造と、社会の持続的発展に貢献します。

マテリアリティ
CSRの重要課題と取り組み状況

NEXCO西日本では、ステークホルダーとの対話を大切に、そこで得られたご意見を経営に組み込みながら、事業活動に反映させていくことをCSR活動の方針としています。
また、対話で得られたご意見をもとに特定したCSRの重要課題に対して、目標を定めて取り組んでいます。

CSRの重要課題と取り組み状況について
サステナビリティ報告の国際的ガイドラインである「GRIガイドライン」第4版(G4)での要請に沿って、対話で得られたご意見をもとに特定したCSRの重要課題と、その取り組み状況を開示します。高速道路事業は、国民の生活に密接に係わる基本的な社会インフラであるため、関わりのあるステークホルダーも多く、CSRにおける重要課題も多岐にわたっています。

重要課題(マテリアリティ)	ステークホルダーとの対話の機会(参加者)*1	重要である理由	KPI・マネジメントアプローチ				GRIガイドライン第4版(G4)では…		関連ページ	
			管理のポイント・指標	目標	実績	次年度の目標	側面(Asspect)	指標(Indicator)		
 お客さま	100%の安全・安心	高速道路での交通事故は、死傷事故など重大な事故につながります。 さらに、管理する道路の多くが建設から30年以上を経過し、補修を必要とする道路構造物が増加しています。	死傷事故率*2(走行車両1億台kmあたりの死傷事故件数)	8.0件/億台km	7.7件/億台km	7.4件/億台km	NEXCO西日本事業エリアの全国路線網	<製品責任> 顧客の安全衛生	G4-PR1 安全衛生の影響評価を行い、改善を図っているものの比率	29ページ
			逆走事件数*2(交通事故または車両確保に至った逆走事件の件数)	—	81件	—			—	
			人の立入事件数*2(高速道路上で歩行者等の保護または歩行者等がいることの通報を受けた件数)	—	1,168件	—			—	
			快適走行路面率(快適に走行できる舗装路面の車線延長比率)	95%	96%	97%			—	
			要補修橋梁数*3(平成26年度に点検した橋梁の健全性区分Ⅲ・Ⅳの橋梁数)	—	70橋 [0橋] (1,281/6,298)	—			—	
	快適な高速道路空間の提供	高速道路の円滑な交通を24時間365日確保することによって、国民生活を豊かにし、経済活動を支えることが、当社の責務です。	総合顧客満足度(CS調査等で把握するお客さまの満足度(5段階評価))	3.7ポイント以上	3.5ポイント	3.5ポイント以上	NEXCO西日本事業エリアのSA・PA	<製品責任> 顧客満足度	G4-PR5 顧客満足度調査の結果	30ページ
			年間利用台数	—	957百万台	—			—	
			通行止め時間*2(単位営業延長(上下線別)あたりの雨、雪、事故、工事等に伴う年間のべ通行止め時間・距離)	—	49時間・km/km	—			—	
			本線渋滞損失時間*2(渋滞が発生することによるお客さまの年間損失時間)	—	475万台・時	—			—	
			路上工事時間(道路1kmあたりの路上作業に伴う年間の交通規制時間)	—	104時間/km	—			—	
SA・PAのお客さま満足施設への変革	旧日本道路公団の民営化の目的のひとつが「多様なサービスの提供」であり、高速道路機構が公団から受け継いだ債務の返済のため、高速道路の資産価値の向上とSA・PAにおける収益力の強化が求められています。	Wi-Fiサービスの提供箇所数	—	146カ所	—	NEXCO西日本事業エリアのSA・PA	<社会> 地域コミュニティ	G4-S01 事業のうち、地域コミュニティとのエンゲージメント、影響評価、コミュニティ開発プログラムを実施したものの比率	WEB	
		ウェルカムゲート(一般道からSA・PAに立ち寄れるゲート)新規設置数	—	5カ所	—			—		
 社会	高速道路ネットワークの整備と機能向上	高速道路ネットワークは、国民生活を豊かにし、経済活動を支える、基礎的な社会資本です。また、輸送コストの削減や交通事故の減少にも貢献しています。	新規開通路線延長	2区間 18km	3区間 39km	—	NEXCO西日本事業エリア	<経済> 間接的な経済影響	G4-EC7 インフラ投資および支援サービスの展開と影響	17ページ
			スマートIC新規設置箇所数	2カ所	3カ所	3カ所			—	
	災害対応力の強化	包括協定・災害協力協定・連携協定(管内府県・政令指定都市、陸上自衛隊)	災害発生時、高速道路には、被災地域の救急・復旧・復興のインフラとしての役割が求められています。	南海トラフ地震被害に備えての資機材の新規備蓄箇所	232カ所	226カ所	6カ所	NEXCO西日本事業エリア	<社会> 地域コミュニティ	G4-S01 事業のうち、地域コミュニティとのエンゲージメント、影響評価、コミュニティ開発プログラムを実施したものの比率
透明性の高い経営と着実な債務の返済	国民の資産である高速道路を管理する事業者として、透明性の高い経営が求められています。	高速道路機構の債務削減	4ページ「主な経営指標」の「高速道路機構の債務残高」をご覧ください。			(旧道路関係4公団)	<経済> 経済的パフォーマンス			G4-EC1 創出、分配した直接的経済価値
 投資家・国民の皆さま	不正通行対策	また、高速道路機構の債務返済を着実なものにしていくため、経営の効率化が求められています。	不正通行発生件数(後日課金申出のあった車両を除き、通行料金を支払わず料金所を通過した車両の通行件数。ETC未課金車両を含む)	—	57,447件	—		NEXCO西日本事業エリア	—	—
			社長定例会見(毎月開催)	—	11回	—	NEXCO西日本			
	ステークホルダーとの対話・メディアを通じた情報発信	ステークホルダーから理解・信頼・期待される企業となるために、積極的な情報公開とコミュニケーション活動が重要だと考えています。	ウェブサイトアクセス数	前年比+5%	前年比+23%	前年比+5%		NEXCO西日本	—	—
		「なるほど!高速道路発見」工事現場の一般公開	—	11回	15回	NEXCO西日本グループ				
CSR報告書での企業活動報告	1回	1回	1回	—	44ページ					

*1 上記のほか、経営改善に向けた取り組み全般にわたって、外部有識者からご意見をいただく機会として、「高速道路事業アドバイザー会議」(7ページ参照)を開催しています。
*2 集計期間: 2014年1月1日~12月31日

*3 平成26年7月より施行されたトンネル等の健全性の診断結果の分類に関する告示(平成26年国土交通省告示第426号)に基づき健全性が診断された橋梁のうち区分Ⅲ・Ⅳの割合。
*4 中段の[]内は健全性区分Ⅳの橋梁数。下段の()内は平成26年度点検橋梁数/全橋梁数。

マテリアリティ
CSRの重要課題と取り組み状況

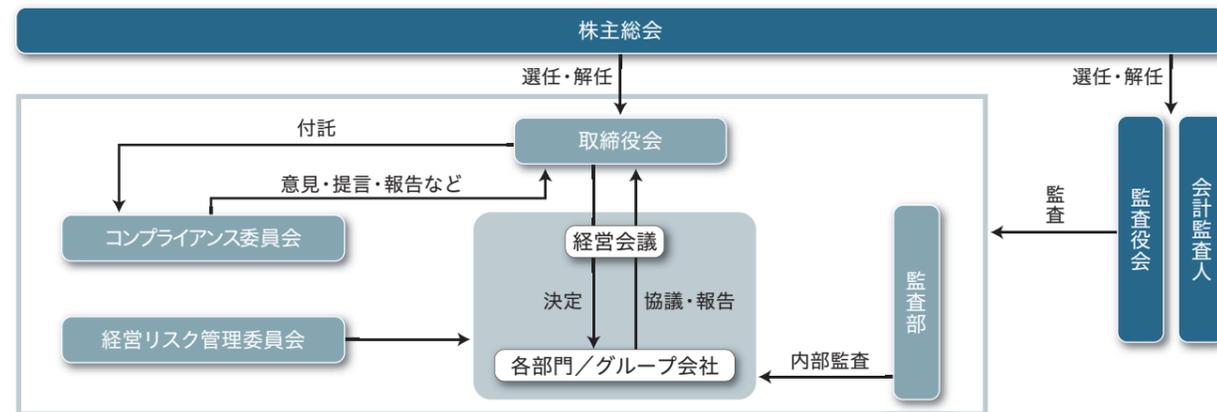
重要課題(マテリアリティ)	ステークホルダーとの対話の機会(参加者) ^{※1}	重要である理由	KPI・マネジメントアプローチ		KPI・マネジメントアプローチ				GRIガイドライン第4版(G4)では…		関連ページ
			管理のポイント・指標	目標	実績	次年度の目標	集計範囲(バウンダリー)	側面(Asspect)	指標(Indicator)		
 グループ社員	● キャリア相談窓口(NEXCO西日本社員) ● ウィメンズネットワーク(NEXCO西日本女性社員) ● 経営懇談会、労使協議会(NEXCO西日本労働組合員) ● 外部講師による研修(グループ社員)	中期経営計画に定めた「自立と成長」を実現するため、一人ひとりが仕事を通じて自律的に成長していける人材育成と、組織・会社の自己変革が重要だと考えています。	階層・職種別研修	—	のべ461回	—	グループ全体	<労働慣行> 研修および教育	G4-LA9 従業員一人あたりの年間平均研修時間(男女別、従業員区分別)	WEB	
			資格取得支援制度の利用者数	—	169名	—	NEXCO西日本		WEB		
			女性管理職者比率	—	6.7%	—	グループ全体		<労働慣行> 雇用	G4-LA1 従業員の新規雇用者と離職者の総数と比率(年齢、性別、地域による内訳) G4-LA2 派遣社員とアルバイト従業員には支給せず、正社員に支給する給付(主要事業拠点ごと) G4-LA3 出産・育児休暇後の復職率と定着率(男女別)	WEB
 お取引先	● エリア・パートナーズ倶楽部(テナント会社)	お客様の多様なニーズに応えるため、SA・PAのテナント会社と協働を重視しています。	食品衛生講習会	56社	56社	56社	飲食物販テナント事業者	<製品責任> 顧客の安全衛生	G4-PR1 安全衛生の影響評価を行い、改善を図っているものの比率	37ページ	
			誤給油防止訓練	10社	10社	10社	元売テナント事業者		G4-PR2 規制および自主的規範の違反件数…製品やサービスのライフサイクルにおいて発生した、安全衛生に関する規制および自主的規範の違反事例の総件数(結果の種類別)	—	
			防犯講習会(不当要求含む)	56社	56社	56社	飲食物販テナント事業者		<人権> 保安慣行	G4-HR7 業務関連の人権方針や手順について研修を受けた保安要員の比率	—
公正な取引関係	● 入札監視委員会(外部有識者)	国民の財産である高速道路の建設・管理を担う会社として、公共調達に係る契約の透明性の確保が求められています。	入札監視委員会の実施回数	—	8回	—	NEXCO西日本	<社会> 腐敗防止	G4-SO3 腐敗に関するリスク評価を行っている事業の総数と比率、特定した著しいリスク	37ページ	
 環境保全	● 各種の対話の機会を通じた環境コミュニケーション(お客様、地域住民、グループ社員、専門家)	高速道路の建設・管理では、大量の建設副産物が発生するため、その削減が求められています。	● 環境アクションプラン ・省エネルギーの推進 ・創エネルギーの推進	電気使用量の抑制によるCO ₂ 排出量の削減(道路施設の維持管理に要する電気使用量)	2011年度以下に抑制する	255.3百万kWh(▲3.7%)	2011年度以下に抑制する	NEXCO西日本事業エリア	<環境> エネルギー	G4-EN7 製品およびサービスのエネルギー所要量の削減	40ページ
			トンネル照明のLED化(上下線別に計上)	19本	13本	28本	40ページ				
			電気自動車急速充電設備の整備数	80カ所 ^{※2}	80カ所 ^{※2}	16カ所	NEXCO西日本事業エリアのSA・PA				15ページ
			● 環境アクションプラン ・廃棄物の発生抑制 ・資源の循環的利用の促進	建設発生土の有効利用率	リサイクル可能なものは100%を目指す	100%	80%以上	NEXCO西日本事業エリア	<環境> 原材料 <環境> 排水および廃棄物	G4-EN1 使用原材料の重量または量	40ページ
				アスファルト・コンクリート塊の再資源化率	100%	99%以上	G4-EN2 使用原材料におけるリサイクル材料の割合			40ページ	
				コンクリート塊の再資源化率	100%	100%	G4-EN23 種類別および処分方法別の廃棄物の総重量			40ページ	
				刈草等の有効利用率	95%以上	97.1%	95%以上			40ページ	
			● 環境アクションプラン ・自然環境の保全 ・沿道環境の保全	グリーン調達	調達可能なものは100%を目指す	100%	調達可能なものは100%を目指す	NEXCO西日本	<環境> サプライヤーの環境評価	G4-EN32 環境クライテリア(評価基準)により選定した新規サプライヤーの比率	WEB
				動物侵入防止対策	246.1km	134.1km	49km	NEXCO西日本事業エリア	<環境> 製品およびサービス	G4-EN13 保護または復元されている生息地	WEB
			新規開通路線における高機能舗装面積	679.3km ²	724.2km ²	90km ²	—		—	WEB	
 社会貢献	● 交通安全講習会(グループ社員) ● 各種ボランティア活動(グループ社員)	社会インフラを管理する公共性の高い企業として、地域社会への貢献が求められています。	交通安全啓発活動	—	のべ81回	—	NEXCO西日本グループ	<地域> 地域コミュニティ	G4-SO1 事業のうち、地域コミュニティとのエンゲージメント、影響評価、コミュニティ開発プログラムを実施したものの比率	41ページ	
			職場周辺における清掃活動	—	のべ1,674回	—				WEB	
			つなぎの森活動	—	4カ所のべ8ha	—				NEXCO西日本管内実施箇所(全7カ所のべ100ha)	41ページ

※1 上記のほか、経営改善に向けた取り組み全般にわたって、外部有識者からご意見をいただく機会として、「高速道路事業アドバイザー会議」(7ページ参照)を開催しています。
 ※2 ハイウェイオアシスへの設置は含まない

コーポレート・ガバナンス(企業統治)

NEXCO西日本では、グループの事業執行における迅速な意思決定、効率的な経営を目指し、ステークホルダーの方々から支持と信頼をいただくために、コーポレート・ガバナンスの充実を図ることが最重要課題のひとつであると認識しています。そのため、経営の意思決定、業務執行、さらにはグループガバナンス、情報開示などについて適切な体制を構築し、経営の健全性、効率性および透明性を確保しています。

コーポレート・ガバナンス体制図



コーポレート・ガバナンス

社外取締役・社外監査役を選任し、経営の健全性・透明性の確保に努めています

当社においては、重要な業務執行に関する事項を決議するため、原則月1回取締役会を開催しています。あわせて経営に関する重要な事項について協議等し、情報共有を行うため経営会議を開催しています。監査役はこれらの重要な会議に参加し、取締役の職務執行を監査し、監査役会では監査実施のための必要な決議を行っています。

また、さらなる経営の監督・監査の強化を目的として、社外取締役・社外監査役を選任し、社外における豊富な知識・経験を当社の経営・監査業務に活かすことで、経営の健全性・透明性の確保に努めています。

さらに、コーポレート・ガバナンスを充実させ、業務を適正かつ効率的に遂行するため、コンプライアンス委員会や経営リスク管理委員会を設置しています(後述)。

- 取締役会**: 取締役と監査役が出席し、原則月1回開催しています。法令および定款で定められた事項、その他重要な業務執行に関する事項を決議しています。
- 経営会議**: 取締役と執行役員等が出席し、原則月2回開催しています。経営に関する重要な事項等について協議または報告され、社内の情報共有が行われています。

- 監査役・監査役会**: 監査役は取締役会や経営会議などの重要な会議に出席し、取締役の職務執行を監査しています。さらに、監査役会を原則月1回、その他必要に応じて随時開催し、監査実施のために必要な決議などを行っています。社外監査役として、4名を選任しています。
- 監査部**: 業務が適法かつ効率的に実施されているか、独立の社内組織として内部監査を実施しています。
- 会計監査人**: 期末のみならず期中においても監査を実施し、会計の適正さを確保しています。

「NEXCO西日本グループ行動憲章」のもと、公正かつ透明性の高い企業活動に努めています

グループで目的と将来展望を共有し、成長することを目指し、私たち一人ひとりが高い理念と規範に基づき行動することが基本であるとの認識のもと、グループの役員および従業員がさまざまな局面で実践すべき指針として、「NEXCO西日本グループ行動憲章」を制定し、その実現に向けてグループが一体となって取り組んでいます。

[WEB掲載情報](#)
グループ行動憲章(全文) / 図: 経営改善推進会議の運用体制

コンプライアンス

コンプライアンス委員会を設置し 公正で透明性の高い企業活動を実践しています

グループ行動憲章のもと、外部委員(3名)を含むコンプライアンス委員会を設置し、外部の知見を活用して公正かつ透明性の高い企業活動の実践に努めています。同委員会は原則年2回開催することとしており、当社グループ全体のコンプライアンスの向上に向けた意見やアドバイス等をいただいています。

[WEB掲載情報](#)
グループ会社・支社でのコンプライアンス推進/社員への浸透推進

社内外にコンプライアンス通報・相談窓口を設けています

公益通報制度として、法令、社内規定、さらには企業倫理等に照らして、グループ各社の業務運営や役員・社員の行動に疑問を感じた時などに、通報や相談を受け付ける「コンプライアンス通報・相談窓口」を設けています。窓口は、社内窓口のほかに、外部窓口(弁護士)を4地区に設置し、広くグループ全体の案件に対応しています。

また、通報者を保護するため、関係者の守秘義務を徹底しており、通報者への連絡が可能な場合は、その結果を通報者に回答しています。

リスクマネジメント

経営リスク管理委員会を設置し リスクマネジメントに取り組んでいます

経営リスク管理委員会を設置し、リスク対策が常に適切に実施されるよう検証・分析しています。委員会においては、新たなリスクの抽出や予防措置の評価、リスク発現時の適切な情報提供の検証等を行い、リスクマネジメントの強化を図っています。

リスク管理体制

(経営リスク管理委員会)
委員長: 社長
構成員: 全取締役、監査役(常勤)、全執行役員、全支社長

(分科会)

● 広報	● 総務・法務	● 入札契約
● CS	● 財務	● 事業開発
● 情報セキュリティ	● 技術	● グループ会社管理
● 人事・労務	● 保全サービス事業	
● 海外事業	● 建設事業	

なお、グループ会社においても同様のリスクマネジメント体制を構築し、グループ内で情報共有するとともに、指導・監督を行っています。

情報セキュリティ

情報漏えい・システム障害対策とともに 情報セキュリティ意識の向上に取り組んでいます

情報漏えいを未然に防止するため、利用者認証、アクセス制限などの不正アクセス対策、ウイルス対策、外部メール誤送信対策を強化しています。また、社内ネットワーク回線・機器のバックアップ体制を整えるなど、システム障害への対策も徹底しています。

さらに、全社員を対象とした「情報セキュリティ自己検査」を年1回実施しています。結果は、個々の社員にフィードバックすると同時に、各職場での啓発にも活用し、全社員が日常業務で適切に情報資産を管理するよう努めています。

また、月に2~3回「情報セキュリティにご注意シリーズ」のメールマガジンを発行し、注意喚起を行っています。

[WEB掲載情報](#) 図: 情報セキュリティ推進体制

人権の尊重

人権問題啓発推進会議を設置し 毎年、活動を見直しています

当社グループでは、社会・社員の信頼に応えるべく、「人権問題啓発推進の基本方針」を制定して、当社グループが一丸となって人権尊重・人権啓発に取り組むことを宣言しています。また、本社および支社に「人権問題啓発推進会議」を設置して、当年度の人権啓発活動を統括するとともに、次年度の活動計画を審議しています。

2014年度は社員研修や社内報、メールマガジンの発行を通じて、人権啓発活動に取り組みました。また、グループ会社に対しても、出張研修などを実施しました。

2015年度も引き続き、活動を継続していきます。

[WEB掲載情報](#) 人権問題啓発推進の基本方針/人権を尊重した明るい職場づくり



お客さま

100%の安全・安心の追求

高速道路の計画的な保全、交通安全対策の推進や24時間365日の道路巡回などを通じて、お客さまの安全・安心の確保に努めています。あわせて、災害に強い道路づくりに向け、新技術を積極的に導入しています。

老朽化した高速道路の計画的な保全



⇒9ページ:特集1「高速道路の長期保全」



道路構造物の更新・修繕/道路附属物の更新・修繕

交通安全の確保

交通安全対策アクションプラン

ハード・ソフト両面の交通安全対策を継続しています

2011年度に策定した「交通安全対策アクションプラン」を軸に、ハード・ソフト両面から交通安全対策を強化しています。

ハード面では、視認性向上・速度抑制などの対策を、2013年度末までに管内301カ所ですべて完了しました。さらに2014年度に管内33カ所を追加対策を実施しました。ソフト面では、プローブ情報から車両の挙動や速度を算出し、ヒヤリハット箇所の抽出や旅行時間の精度向上などにつなげ、より高精度な情報提供に向けて取り組みを継続しています。

これらの結果、死傷事故率は、2006年度の10.7件/億台kmから2014年度は7.7件/億台kmと全体的に減少傾向にあります。今後、「アクションプラン」の効果を検証し、さらなる安全の実現に努めていきます。



WEB掲載情報 さまざまな交通安全対策



雨天時の走行安全性の向上(向かって右側の車線が高機能舗装)

DRIVE&LOVE

幅広い企業・団体や個人と連携し、交通事故ゼロを目指す活動を推進しています

社会全体で交通事故ゼロを目指すプロジェクト「DRIVE&LOVE」を2010年に立ち上げ、230を超える賛同企業・団体、約21,600名の個人サポーターの皆さまとともに、「愛する人、思い出してから運転」の実践を呼びかけています。

2014年度においては、各種交通安全啓発イベントへの参加、公式ウェブサイトでの情報発信のほか、賛同企業・団体との交流会を開催し全国各拠点でのPR協力を求めるなど、プロジェクトのさらなる認知の拡大・理念の浸透に向けて、活動を推進しました。



高速道路交通の管理

高速道路のパトロール

24時間365日の高速道路巡回を通じて、道路の安全と円滑な交通を確保しています

道路の安全と円滑な交通の確保を図るため、NEXCO西日本グループのパトロール会社が、「交通管理隊」を組織し、高速道路を24時間365日体制で巡回しています。

交通管理隊が収集・把握した渋滞の発生状況や気象情報などは道路管制センターで集約し、情報板などを通してドライバーに迅速に発信しています。また、路上障害物が発生した際は、緊急出動して排除にあたるほか、警察・消防と連携した事故対応、故障車に対する援助などを通じて、お客さまの安全で快適なドライブをサポートしています。



WEB掲載情報 法令違反車両の取り締まり



交通管理隊のパトロールカーが24時間体制で高速道路を巡回



社員コメント

NEXCO西日本パトロール関西

高速道路を見続けているからこそ「気づき」を大切に、お客さまの安全をサポートします

24時間高速道路を見続けている交通管理隊だからこそ、些細な道路の変化にも「気づく」ことを大切にしています。そのためにも、常に目的意識と問題意識を持ちながら、パトロールを行うよう努めています。



福岡基地 隊長
河野 博紀

後を絶たない道路上の落下物への乗り上げ事故については、落下原因のひとつである不適切な荷物の積載方法を是正していただくよう、事故の多い時間帯や区間を選定して啓発・指導を行うなど、事故削減に向けた取り組みを強化しています。落下物等を見られた際は、緊急ダイヤルやお客さまセンターにご連絡ください。お客さまからの情報が、高速道路を利用される多くのお客さまの安全につながりますので、ご協力をお願いします。

災害に強い高速道路づくり

耐震補強

災害発生時の重要なインフラである高速道路が継続して利用できるよう、対策を進めています

高速道路は、地震などの自然災害の発生時に、人命救助や災害応急対策に必要な物資や資機材などを広域的に緊急輸送するための、極めて重要なインフラと位置付けられています。

当社では、災害に強い道路を目指して、橋脚に繊維シートや鋼板を巻き付けるなど、靱性・強度を高める耐震補強を実施してきました。今後、さらなる耐震補強を推進してまいります。



耐震補強工事を計画的に実施しています



WEB掲載情報 集中豪雨対策/斜面災害防止技術の研究開発

新技術の導入・研究開発

産学連携の推進

新技術の早期実用化に向け、連携を推進しています

当社の現場ニーズと大学の高度な基礎技術とをマッチングさせ、研究成果の早期実用化を図るため、大学との研究連携を推進しています。

また、大学に共同研究講座などを設け、実務に適用できる技術の開発の促進やスペシャリストの育成に取り組んでいます。



WEB掲載情報 デジタルカメラによる点検/金属溶射による鋼橋の劣化防止/非破壊検査技術の開発/鉄筋を使わない新型橋梁の開発

快適な高速道路空間の提供

交通渋滞の緩和や正確・迅速な道路交通情報の提供などに取り組むとともに、CS(お客さま満足)の継続的な改善を図っています。

交通渋滞の緩和

交通容量の確保

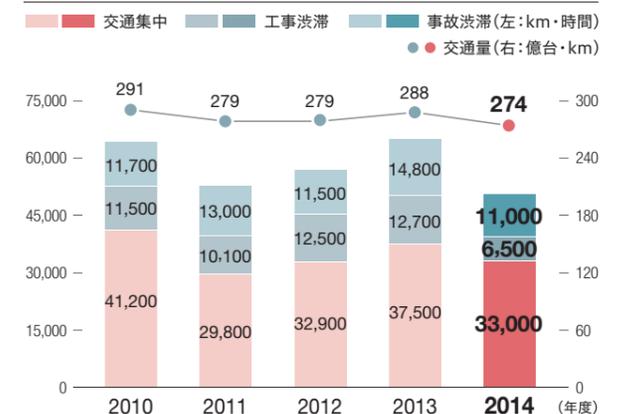
ソフト・ハード両面の渋滞緩和対策を推進しています

高速道路の渋滞を緩和するため、ほかの道路とのネットワーク形成による交通の分散や車線の増設、文字情報などの提供による速度低下抑制など、ソフト・ハード両面の対策に取り組んでいます。



WEB掲載情報 一部拡幅工事・ネットワーク強化/渋滞予測情報の提供/集中工事の実施

高速道路における渋滞状況



道路交通情報

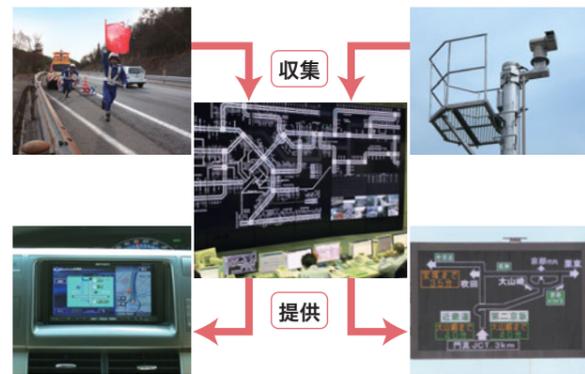
道路管制センター

情報の集約・発信基地として、お客さまの安全確保に努めています

道路管制センターでは、併設されている管区警察局高速道路管理室とともに、24時間365日体制で、安全運転に必要な情報の収集・発信や道路設備の監視・制御を行い、お客さまの安全確保に努めています。また、交通管制部門では、交通事故や渋滞、異常気象などの情報を集約して、各種情報板などを通じてリアルタイムにドライバーに発信し、交通管理隊への緊急出動命令や警察・消防への通報を行っています。

さらに、高速道路に設置された非常電話、情報板などの各種設備により、異常事象の早期発見と迅速な復旧・対応に努めています。

WEB掲載情報 ウェブサービス「アイハイウェイ」



必要な情報をさまざまな手段で収集、提供しています

お客さまサービスの向上

料金所での接客サービスの向上

笑顔と挨拶による接客を基本に総合的なサービス向上に努めています

料金所でのお客さまサービスを担っている当社のグループ会社では、「笑顔」での挨拶を接客の基本としています。

また、昨今は料金精算機の導入により、インターホンを通してお客さまと接する機会が増えています。「声」による対応においてもおもてなしの心をお伝えできるよう、日頃からシミュレーションを取り入れたアナウンス研修や外部講師を招いての勉強会を行っています。お客さまと接する機会の多い「NEXCO西日本の顔」と

して、災害発生時の措置や高速道路全般に関する問い合わせにも対応できるよう、24時間365日を通じて業務に取り組んでいます。

社員コメント NEXCO西日本サービス四国

「一期一会」の気持ちで、お客さま満足度の向上に努めています

「一期一会」の気持ちを大切に、日頃から接客レベルの向上に努めています。また、正確な料金収受を行うため、業務の空き時間には、eラーニングによる自主学習で、料金改定等の知識向上に努めています。2014年の料金改定後は硬貨の扱いが多くなったため、トレーを活用し、お客さまとの相互確認を確実にすることを心がけています。

私たちの業務の基本は、お客さまの安全・安心を最優先に、快適に高速道路をご利用していただくこと。異常気象や突発的な事故等による通行止めが発生した際も、スタッフ全員がスピーディーかつタイムリーな情報提供をできるよう努力していきます。



松山料金所
サービス係長
藪下 賢

ETCの利便性向上

入口ETCレーンの複数設置を進めるとともに第二世代ETC導入を進めています

入口ETCレーンが1つしかない料金所ではこれまで、カード未挿入などによるトラブルやメンテナンスなどでETCレーンが閉鎖されている時には一般レーンのご利用をお願いしており、ご不便をおかけしていました。

このため当社では、ETCサービス休止時間の削減を目指し、入口レーンへのETC複数設置工事や、円滑なレーン通行を可能にする第二世代ETCの導入工事を進めています。2014年度末までに、複数設置は料金所全体の55%となり、第二世代ETCの導入は約40%まで完了しています。

第二世代ETCの主な機能



双方向テレビインターホン

遠隔復帰型発進制御機

再通信アンテナ

CS推進本部会議

経営層が参加する会議で、お客さまのご意見から課題を抽出し、解決策を検討しています

お客さまのニーズに迅速に対応するため、経営層・各担当部による「CS推進本部会議」を毎週(年間約50回)開催し、お客さまから寄せられたご意見・ご要望について、議論しています。特にお客さまの安全・安心等の重大リスクに関わるご意見については注目してフォローしています。

2013年度からは、ご意見から重点課題を選定して、抜本的な課題解決に向けた議論も行っています。また、全体的かつ継続的なCSの改善に向けて、CS推進本部会議と支社・事務所との役割と責任の再構築・明確化を進めています。

なお、個別の改善事例については、会社ウェブサイトやSA・PAの掲示板に掲載しています。

こうした取り組みを通じて、今後もお客さまとのいっそうの信頼関係強化を目指していきます。

WEB掲載情報

お客さまセンター／お客さまの声の状況／お客さまの声対応プロセスの明確化／お客さまの声による改善状況の紹介と信頼関係の強化／CS推進オピニオンリーダー意見交換会／CS意識の向上

SA・PAのお客さま満足施設への変革

施設の改善や新たなサービス、くつろぎ・楽しさ・にぎわいをお客さまに提供すると同時に、地域からも愛され、喜ばれるSA・PAを目指します。

関連情報

⇒13ページ:特集2「お客さまと地域に愛されるSA・PAづくり」

新メニューの開発

WEB掲載情報 「モテナス」オリジナル商品の開発

ドライブの拠点機能

インフォメーション

海外からのお客さまへの対応を充実させています

SA・PAでは、海外のお客さまにも安心して高速道路をご利用いただける環境整備に努めています。インフォメーションを設置している67カ所のエリアで、外国語

対応の地図(英語・韓国語・中国語)の配布や電話通訳(英語・中国語・韓国語・ポルトガル語・スペイン語)サービスを活用したご案内を行っています。

2015年度は、一部のエリアにおいて試行的に翻訳ソフトを活用したご案内を行う予定です。

WEB掲載情報 Wi-Fiサービス/シャワーステーション



名神高速道路 大津SA(下り線)「パヴァリエびわ湖大津」

お客さま・地域との交流

イベントの実施

「パヴァリエ」として運営する3つのSAでイルミネーションを実施しました

旅の目的地となるような特徴を持った新タイプのSA「PAVARIE(パヴァリエ)」として運営している、大津SA(下り線)、福山SA(上り線)、山田SA(下り線)の3エリアで、2014年11月22日から2015年3月1日まで地域を象徴する風景・文化と独自コンセプトを融合させたイルミネーション装飾を展開しました。開催日にはお客さま参加の点灯式イベント等を実施し、SAを訪れるお客さまにお楽しみいただきました。

今後も、お客さまに喜ばれるサービスを積極的に考案・展開していきます。



名神高速道路 大津SA(下り線)「パヴァリエびわ湖大津」

WEB掲載情報 ウェルカムゲート

高速道路ネットワークの整備と機能向上

関連情報

⇒17ページ:特集3「高速道路ネットワークの整備」

WEB掲載情報

新たな高速道路ネットワークの整備/スマートICの整備

災害対応力の強化

防災体制

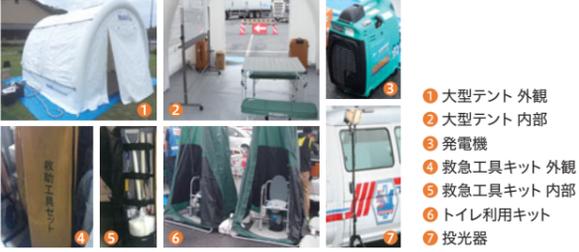
道路機能を迅速に回復できる体制の構築を進めています

高速道路の早期復旧にあたっては、情報の収集・発信拠点となる「災害対策本部」を災害規模に応じて設置し、本部を中心に指揮統制の取れた体制を構築することが重要です。そこで、訓練等によって得られた課題についての対策を講じるなど、災害対応計画を継続的に見直しています。

また、災害発生時の復旧作業が必要となる、交通規制材や土のうなどの資機材の備蓄強化にも努めています。さらに、地域の建設会社などと、応急復旧についての協力協定を締結するなどの取り組みも進めています。

2014年度は、災害時に一般電話等が途絶した場合に備え、震度6強および津波浸水が想定される地域の本社・支社・事務所・休憩施設・料金所等の拠点に衛星携帯電話を約300台配備しました。また、被害状況の早期把握を目指して、民間ヘリ会社と契約を締結しました。

備蓄している主な資機材



WEB掲載情報

南海トラフ地震被害想定にもとづく資機材等の備蓄

地域・他機関との連携

包括協定・災害協力協定・連携協定に基づく連携強化を図っています

地域住民の安全・安心の向上を図るため、地震など大規模災害時の相互協力を定めた災害協力協定を、2012年5月末までに西日本の全24府県と締結しています。

また、大規模災害時の迅速な緊急交通確保と連携した被災地支援を目的に、陸上自衛隊と連携協定を締結するとともに、具体的な連携内容の調整、合同訓練等に取り組んでいます。加えて、自衛隊が保有するヘリコプターからの映像を活用する協定を締結するなど、災害時に備えた連携強化も進めています。2014年度は、地震によって段差が発生したと想定した段差補修訓練を関係機関と共同で実施しました。

自治体と協定を結んだ一時避難場所

年月	自治体	一時避難場所
2011年8月	徳島県・徳島市	徳島道 徳島IC～鳴門JCT
2012年4月	西都市・新富町	東九州道 西都IC付近
2012年7月	高鍋町	東九州道 高鍋IC～都農IC
2012年7月	須崎市	高知道 須崎東料金所
2012年9月	観音寺市	高松道 豊浜SA
2012年9月	日向市	東九州道 日向IC～都農IC
2012年11月	門川町	東九州道 門川IC
2013年11月	金武町	沖縄道 伊芸SA
2014年2月	徳島市	徳島道 徳島IC
2014年2月	徳島県・徳島市・鳴門市・松茂町・北島町	徳島道 徳島IC～鳴門JCT
2014年9月	みなべ町	阪和道 みなべIC

防災訓練

関係機関と連携し、実践的な訓練を実施しています

地震など自然災害の発生時に迅速かつ確な対応ができるよう、グループ全体や関係機関と計画的に防災訓練を実施しています。

2014年度は関係機関と連携した実動訓練を実施し、



社外コメント

みなべICを津波避難場所とする協定で住民の安全が確保できました

みなべ町とNEXCO西日本は、2014年9月に、「緊急津波避難における高速道路区域の一部使用に関する協定」を結びました。



和歌山県みなべ町 総務課 尾崎 聡 様

阪和自動車道 みなべIC付近は南海トラフ地震の津波で5m未満の浸水が想定されていますが、周囲に高台がありません。協定によって、みなべICの駐車場を避難場所として使用できるようになったことで、住民の安心・安全が大いに高まりました。2015年1月には、NEXCO西日本の皆さまにご協力をいただき、みなべICへの津波避難訓練を実施することができました。

みなべIC近くに一部残る津波避難困難区域の解消に向けた検討についても、ご協力をいただければと期待しています。

社内訓練では、本社・支社間の連携の確認および課題抽出を行うため、吹田社屋において総合防災訓練を実施しました。

また、一時避難場所の協定を締結している阪和自動車道みなべICや徳島自動車道沿線地域等において、周辺住民が参加した一時避難訓練を自治体等と共同で実施しました。

2015年度も引き続き、関係機関と連携した訓練を実施しながら、課題抽出および改善等に取り組み実効性のある体制の構築に取り組んでいきます。



津波一時避難訓練(左:和歌山県みなべ町 右:徳島県鳴門市)

海外での新たな価値の創造

技術・ノウハウの活用による事業の展開

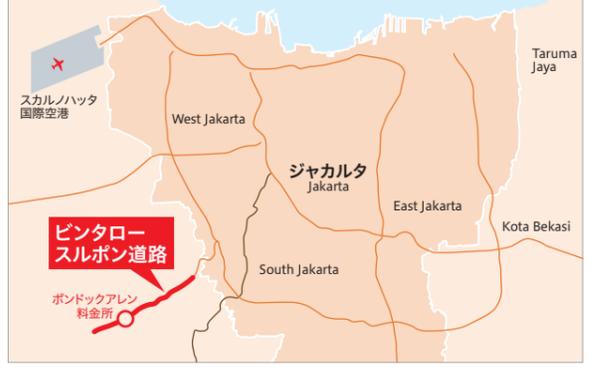
インドネシアでの道路PPP事業に参画しました

2011年に設置した駐在員事務所を拠点に営業活動を進めてきた結果、2014年11月、日本の高速道路会社として初めてジャカルタ近郊のピンタロー スルボン道路(7.25km)の有料道路を運営する現地企業の株式を一部取得する契約を締結し、海外道路PPP事業※に参画しました。

今後、現地企業とのパートナーシップを通じ、当社グループの高速道路の運用経験、ノウハウを活用し、現地のニーズに即した技術アドバイスなどを行うことで、インドネシアにおける本格的な有料道路事業参画の足掛かりとしていきます。

※ PPP事業(Public Private Partnership 官民連携):民間の資金や経営・技術力などのノウハウを活用し、効率的かつ効果的な公共サービスの提供を図る事業手法。

インドネシア・ジャカルタ近郊の地図



ピンタロー スルボン道路全景



ポンドックアレン料金所



社外コメント

インドネシアのインフラ企業リーディングカンパニーを目指して

NEXCO西日本と弊社は、相互技術力の向上を目指した取引を通じて、関係を構築することができました。NEXCO西日本は、日本の高速道路ネットワークの発展に50年以上の間、貢献されております。



Ms. Yusantara Infrastucture ストラクチャー社 アドリアント ジャニユリ 様

インフラにとって最も大切なことは、いつでも利用できる状態にしておくことです。NEXCO西日本の先進的なテクノロジーと適切な技術的助言により、弊社グループの高速道路の水準が向上することで、ご利用されるお客さまに対して安全でかつ信頼できる高速道路の走行環境をご提供できるようになり、これを通じて、インドネシア共和国の発展に貢献してまいります。

WEB掲載情報

米国での事業展開/海外事業拡大に向けた各種調査/人材育成・技術移転を通じた国際貢献/国内道路事業とのシナジーの追求

ノウハウを活かした新たな事業

WEB掲載情報

高速道路管理のノウハウを活かした業務受託/グループの資産・人材を活用した地域貢献/一般有料道路の運営事業への参画



投資家・国民の皆さま

透明性の高い経営の推進と着実な債務の返済

着実な債務の返済

関連情報

⇒4ページ: 主な経営指標「高速道路機構の債務残高」

低利率かつ安定的な資金調達

道路建設資金の安定的な調達に努めています

高速道路事業の遂行に必要な資金については、社債の発行や民間金融機関からの借入等によって調達しています。

高速道路事業は建設から管理まで長期にわたる事業となるため、低利率かつ安定的に調達できるよう努めています。

外部評価による透明性確保

事業評価監視委員会による外部評価を受け、事業の効率性・透明性を向上させています

NEXCO西日本では事業の効率性・透明性の向上を図るため、社外の有識者からなる事業評価監視委員会を設置しています。毎年1回開催し、当社の高速道路事業について第三者の立場から評価をいただき、今後の事業計画に役立てています。委員会の開催状況はウェブサイトでも公開しています。

WEB掲載情報

グラフ: 資金調達の推移/事業評価監視委員会の開催状況

不正通行対策

基本的な取り組み

防止対策や啓発の強化によって、不正通行件数は年々減少しています

有料道路事業は、道路をご利用されるすべてのお客さまから公平に通行料金をご負担いただくことで成り立っています。

レーンを強行突破するなど不正に通行料金の支払いを免れる行為(不正通行)は、公平性の原則を揺るがす犯罪行為です。

そこで、当社では、毎年「不正通行対策強化月間」を設けて、警察との合同取り締まりをはじめとした各種取り組みを実施しています。また、ETCの利用方法を含めた不正通行事前防止の啓発活動も行っています。こうした取り組みによって、不正通行件数は年々減少しています。

今後も「不正通行は断固許さない」という毅然とした態度で、悪質な不正通行の分析調査に注力するとともに、警察の捜査にも積極的に協力し、その撲滅を目指していきます。

WEB掲載情報

グラフ: 不正通行件数の推移/不正通行調査隊

ステークホルダーとの対話

社長による定例記者会見

毎月の開催を通じて、事業への理解の浸透に努めています

当社グループの経営状況、建設・管理、関連事業等への取り組みに対する理解を深めていただくため、社長による記者会見を毎月開催し、情報発信に努めています。

WEB掲載情報

投資家・金融機関の皆さまとの対話/地域住民の皆さまとの対話/現場見学会の開催

メディアを通じた情報発信

ウェブサイトでの情報発信

より使いやすく、きめ細かな情報提供を目指して改良を重ねています

当社では、ウェブサイトにおいて、料金・経路検索サービス、交通情報や渋滞予測情報、工事規制情報などについて、きめ細かな情報提供を心がけています。情報は日々更新するとともに、使いやすいサイトを目指し、改良を重ねています。また、事業内容や記者発表、IR情報、調達・お取引情報などについても積極的に公開しています。



リフレッシュ工事特設サイト

WEB掲載情報

経路・料金検索サイト/集中工事情報の広報



グループ社員

人材の育成

人材育成の考え方

NEXCO西日本グループの使命を担っているグループ社員一人ひとりの成長を支援します

当社グループでは、自律型人材の育成や自己変革組織を実現するため、「社員の成長、人材育成」「リーダーシップ・マネジメント力強化」「組織力・現場力強化」の3つを柱とした人事制度の構築に取り組んでいます。

若年層のうちには、幅広く全般を学び、OJT※を通じて自ら目的意識を持って考え行動する「自律型人材」への成長を促し、今後の実践につなげるための支援をしています。また、一人ひとりが使命感を持ち、安全・安心な高速道路を最前線で支える現場を知ることが重要であり、強い「現場力」を発揮する組織をつくるため、グループ会社間における人事交流を実施しています。

※OJT(On-the-Job Training): 職場内において、管理監督者の責任のもとで行われる教育訓練全般。

WEB掲載情報

キャリアマネジメントの取り組み/資格取得の支援/採用選考/研修制度/茨木研修センター

ダイバーシティの推進

ダイバーシティ推進の考え方

一人ひとりの社員がより活躍できる組織づくりを推進しています

2014年に「違いを尊重し、個々が活躍し、進化し続けるチームへ」というビジョンを策定し、「ダイバーシティ推進プロジェクト」を立ち上げました。

社員一人ひとりが自律・成長することにより、会社を取り巻くさまざまな環境の変化にすなやかに対応できる組織を目指して、ワークライフ・インテグレーションの



研修の様子

推進や女性、定年退職者、障がい者をはじめとする多様な人材の活躍促進など、各種施策に取り組んでいます。

WEB掲載情報

ワークライフ・インテグレーションの推進/女性の活躍促進/障がい者の雇用促進/定年後再雇用制度

働きやすい職場づくり

WEB掲載情報

メンタルヘルスケア

グループ会社の取り組み事例

NEXCO西日本メンテナンス中国

道路工事の際、交通規制にあたる社員に対し資格取得を支援しています

交通規制の実施にあたっては、安全かつ迅速な対応が求められます。そのためNEXCO西日本メンテナンス中国では、交通誘導警備業務2級検定を受検する社員を対象に、社内で学科・実技を含めた「事前教育」を実施するなど、資格取得を支援しています。

2014年度は同検定に16名が合格、現場社員の取得者は累計で111名(約60%)になりました。2015年度は、28名の社員が「事前教育」の受講と検定受検を予定しています。



社員コメント

NEXCO西日本メンテナンス中国

資格取得を目指す社員の「やる気力」「意志力」アップをサポートしていきます

「企業価値を向上させる資格」「業務遂行に必要な資格」「個人のスキルアップを目指す資格」の取得に向け、社員のモチベーションの向上に努めています。資格取得支援の担当部署として、気軽に相談に乗ってくれる先輩社員、チョットしたプレッシャーを与える上司など、一人にしない職場環境を整えながら、受検する本人が競争心を沸かして「やる気力」「意志力」をアップさせる取り組みを促進していきます。



工務調達部 部長 古輪 一明

WEB掲載情報

NEXCO西日本サービス関西(女性スタッフの雇用および活躍の促進)



お取引先

SA・PAのテナント会社との協働

お客さま満足度の向上

接客力の向上に取り組んでいます

NEXCO西日本グループでは、SA・PAのテナント従業員の方を対象とした接客コンテストを実施しています。コンテストを通じてより高い接客技術を身に付けることを目的としています。

また、グループ内のコンテストで優秀な成績を収められた従業員の方は、社外のコンテストに参加いただき、さらなる接客力とモチベーションの向上につなげています。2014年度は、2013年度のグループ内のコンテスト



社外コメント

SC接客ロールプレイングコンテスト※1 出場者より

コンテストで学んだことを店舗で共有し、さらに親しみのある接客につなげたい

社外コンテストには、笑顔とアイコンタクト等、常にお客さまの立場に立って行動・接客するという日頃から大事にしていることに自信を持ち、楽しむ気持ちで臨みました。学んだことを店舗のスタッフにも共有し、さらに親しみのある接客につなげていきたいと思っています。



(株)三好野本店
永吉 かおり 様※2

緊張しましたが、 普段どおり心のこもった接客を披露できました

初めての社外コンテストは緊張しましたが、普段どおりの笑顔と気配りの接客を披露できました。接客の動きや丁寧さは短期間で身につけられるものではないので、今後も全スタッフでトレーニングし、日頃の接客において、自然な振る舞いができるよう努めていきたいです。



九州産交リテール(株)
溝口 美穂 様

店舗スタッフも刺激を受け、店全体の意識が向上しました

社外コンテストは、より多くのお客さまに舞鶴若狭自動車道 西紀SAを知っていただくために、自分自身ができることを考える良い機会になりました。また、店舗スタッフが刺激を受け、接客意識の向上にもつながりました。練習に付き合ってくれた同僚にも、感謝しています。



光明興業(株)
鶴 直樹 様

※1 一般社団法人日本ショッピングセンター協会主催。テナント従業員の資質向上を目的に、全国8地区に分かれて開催されている。

※2 中国・四国大会「審査員特別賞」受賞

でグランプリ・準グランプリを受賞した3名が日本ショッピングセンター協会主催のロールプレイングコンテストに参加しました。

今後も、SA・PAのテナント会社と協働で、接客力の向上に取り組んでいきます。

テナント会社向け研修

食品衛生講習会を実施しています

SA・PAの飲食店などの店舗を利用されるお客さまに、安全・安心な食事を提供することはサービスの基本です。そこで、SA・PA各テナント従業員の食品衛生に関する知識と意識の向上を目的とした食品衛生講習会を、年1回実施しています。

2014年度は、テナント会社(全56社)に参加いただきました。今後も講習会を継続実施していきます。



食品衛生講習会の様子

WEB掲載情報

「地域物産展」の開催／「スマイルコンテスト」の実施

公正な取引関係

基本的な考え方

「公共調達に係る契約に関する事務を適正かつ円滑に処理し、競争性・公正性・透明性を確保しつつ会社の経営の効率化を図る」という目的達成のため、基本方針をもとに取引を行っています。

適正な契約相手方の選定と手続き

契約の過程ならびに結果を外部有識者が審議し ウェブサイト上で公表しています

入札および契約の過程ならびに契約内容の透明性を確保するため、各支社に弁護士、大学教授など外部有識者からなる「入札監視委員会」を設置しています。審議内容については、当社ウェブサイトの「調達・お取引」で公表し、透明性の向上に努めています。

また、事業部門から独立した「入札監視事務局」を設置し、工事の発注単位などの事前審査、入札・契約結果に関する事後審査、契約に関するデータ収集・分析を実施しています。

WEB掲載情報

契約の基本方針／図：入札手続きなどの監視体制／暴力団関係企業等排除の徹底／契約情報の公表



環境保全

環境経営の推進

環境マネジメントの推進

中期計画「環境基本計画2015」に基づき 活動を推進しています

NEXCO西日本グループでは2011年7月、「環境方針」に基づく中期計画として「環境基本計画2015」を策定しました。

この環境基本計画は、「低炭素社会の実現」「循環型社会の形成」「自然と共生する社会の推進」という環境方針に基づく3つの重点テーマと、環境コミュニケーションというテーマに関わる活動から成り立っています。

また、2008年12月に本社においてISO14001の認証を取得し、PDCAサイクルを回すことによって、環境負荷低減の取り組みを継続的に改善しています。

2015年度も引き続き活動を推進していきます。

環境方針

西日本高速道路株式会社は、事業活動が環境に及ぼす影響を真摯に捉え、高速道路事業者としてまた社会の一員として、社員の一人ひとりが、環境の保全・改善に積極的に取り組み、持続可能な社会の形成を目指します。

取り組みの実施にあたっては、環境側面に関する法規制等を遵守し、環境目的・目標を定めるとともに、それらを定期的に見直すことで継続的に改善します。

(2008年策定、2011年一部改定)

低炭素社会の実現に取り組めます

未来を担う世代が生活の豊かさを実感できるように、道路空間を活用した省エネルギー、創エネルギー及び緑化の推進に取り組めます。

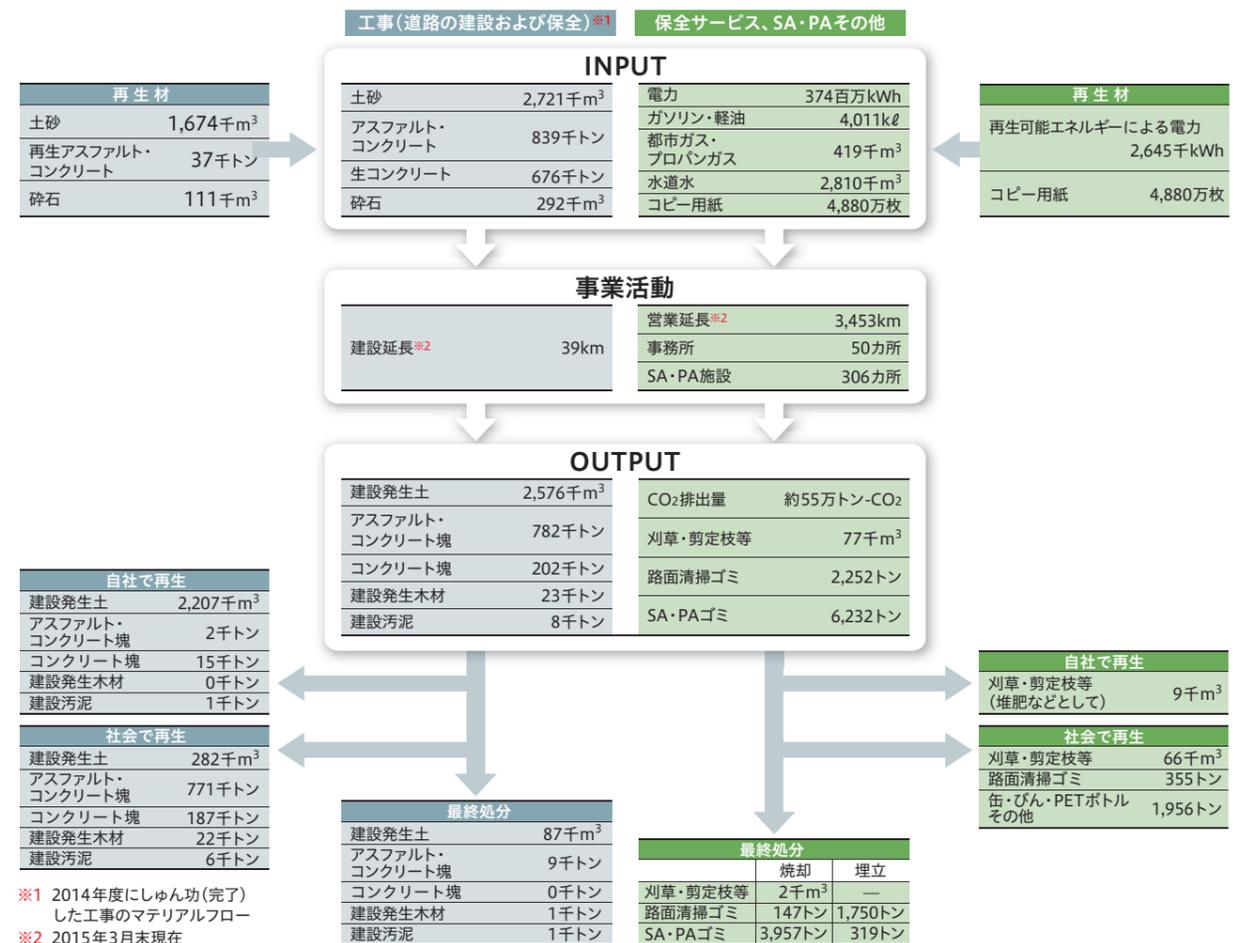
循環型社会の形成に取り組めます

天然資源の消費を抑制し、環境への負荷を低減するため、廃棄物等の発生抑制(リデュース)、循環資源の再使用(リユース)及び再生利用(リサイクル)に取り組めます。

自然と共生する社会の推進に取り組めます

人と生きものが豊かに暮らせる社会を目指し、自然環境や人々の生活環境の保全と創出に取り組めます。

事業活動に伴うマテリアルフロー



※1 2014年度にしゅん功(完了)した工事のマテリアルフロー

※2 2015年3月末現在

「環境基本計画2015」および環境アクションプラン2014

実行目標計画の取り組み項目	活動内容	指標	アクションプラン			
			2014年度目標	2014年度実績		
円滑な交通の確保	高速道路ネットワークの整備	新規高速道路のネットワーク整備を実施する	開通延長 CO ₂ 削減量	39km ^{※1} 16,000トン	39km ^{※1} 16,000トン	
	本線渋滞の削減	工事を効率的に実施することで工事に伴う本線渋滞損失時間を削減する	本線渋滞損失時間 CO ₂ 排出量	105万台・時間以下 3,044トン	34万台・時間 984トン	
	ETCレーンの複数設置	入口にETCレーンの複数設置を進める	設置箇所	179カ所	130カ所	
省エネルギーの推進	電気使用量の削減	道路施設の維持管理に要する電気使用量を削減する	電気使用量 CO ₂ 排出量	2011年度実績より削減する 161,795トン	255.3百万kWh (2011年度比 ▲3.7%) 159,202トン	
	車両の燃費向上	連絡車両についてエコドライブの実施や低公害車(低燃費・低排出ガス車)の導入により燃費を向上させる	燃費 CO ₂ 排出量	2009年度実績より向上させる 1,491トン以下	5.2%向上 (2009年度比) 1,278トン	
	ガス使用量の削減	オフィス活動に要するガス使用量を削減する	ガス使用量(都市ガス+LPガス) CO ₂ 排出量	2009年度実績より5%以上削減する 996トン以下	17.3%削減 732トン	
	水使用量の削減	休憩施設(トイレ)の維持管理に要する水使用量を削減する	水使用量 CO ₂ 排出量	2009年度実績より削減する 587トン	2.2%削減 (2009年度比) 562トン	
創エネルギーの推進	太陽光発電の導入の推進	新設料金所等に太陽光発電を設置する	導入量	120kW	120kW	
	EVスタンドの整備	サービスエリア等に急速充電システムを整備する	設置箇所	80カ所 ^{※2}	80カ所 ^{※2}	
二酸化炭素吸収源対策	道路緑化等によるCO ₂ の固定	盛土のり面の樹林化を推進する	設置面積 CO ₂ 削減量	51.9ha 498トン	48.8ha 468トン	
技術開発	新技術・新材料の開発	省エネ型照明光源を導入する	設置数	388灯	506灯	
環境に配慮した製品・資材等の調達	グリーン調達の推進	事務用品における特定調達物品などの調達率100%を目指す	調達率	100%を目指す	100%	
	廃棄物の発生抑制・資源の循環的利用の促進	維持管理車両の再利用	維持管理車両の再利用を推進する	車両台数	再利用の継続	64台
		廃棄物の3R(リデュース、リユース、リサイクルの推進)	刈草等の有効活用を推進する	有効活用率	95%以上	97.1%
			建設発生土のリサイクルを推進する	有効利用率		100%
			アスファルト・コンクリート塊のリサイクルを推進する	再資源化率		100%
			コンクリート塊のリサイクルを推進する	再資源化率	リサイクル可能なものについて100%を目指す	100%
			休憩施設での発生ゴミの再資源化を推進する	再資源化率		100%
			建設発生木材のリサイクルを推進する	再資源化・縮減率		100%
			建設汚泥のリサイクルを推進する	再資源化・縮減率		99.4%
	バイオディーゼル燃料使用を拡大する	維持作業機械の使用量 CO ₂ 削減量	9,600ℓを維持する 24トン	7,549ℓ 19トン		
自然環境の保全	エコロードの推進	動物侵入防止対策を推進する	設置延長	246.1km	134.1km	
		森林再生事業「つなぎの森」を展開する	整備面積 CO ₂ 削減量	3ha 20.4トン	8ha 39.9トン	
生活環境の保全	道路交通騒音対策	高機能舗装の新規敷設を推進する	敷設延長	679.3km ²	724.2km ²	
		遮音壁の新規設置を推進する	設置延長	14.2km	15.5km	

※1 徳島自動車道 鳴門JCT～徳島IC(11km)、東九州自動車道 行橋IC～みやこ豊津IC(7km)、東九州自動車道 豊前IC～宇佐IC(21km)
 ※2 ハイウェイオアシスへの設置は含まない

低炭素社会の実現

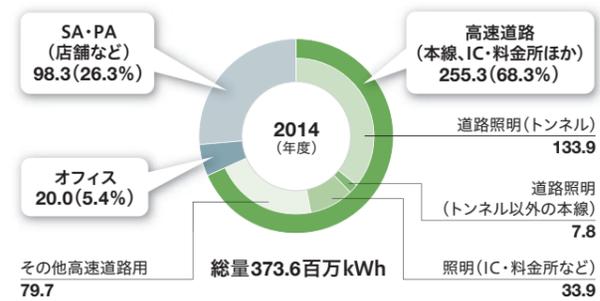
省エネルギーの推進

電気使用量の3割以上を占めるトンネル照明のLED化を推進しています

当社グループが使用する電気の3割以上は、高速道路のトンネルに設置された照明です。これらをすべてLED化すると、トンネルでの電気使用量の約4割の削減が見込まれます。このため、当社ではトンネル照明のLED化を推進しています。

現段階では2015年度までに全体の6.9%にまで拡大する計画を立てています。2014年度末時点で44本のトンネルでLED化を完了し、2015年度は新たに28本のトンネルのLED化を予定しています。

電気使用量の内訳 (単位:百万kWh)



WEB掲載情報

基本的な考え方/交通渋滞の解消/オフィスでの省エネ活動/SA・PAの省エネ活動/充電システムの整備/創エネルギーの推進/のり面の樹林化

循環型社会の形成

建設副産物の3R

建設廃棄物や建設発生土の再利用・再資源化に努めています

事業活動に伴って排出される建設廃棄物・建設発生土などの現場内での再利用を推進し、現場で再利用しきれないものについても、他の工事現場や再資源化工場への持ち込みを進めるなど、最終処分(埋め立て)をできるだけ少なくしています。

また、アスファルト・コンクリート塊などの建設廃棄物についてはコンクリートや舗装の骨材や基礎砕石として、建設発生土は道路の盛土材などとして、再利用しています。

今後も建設副産物の3Rの推進に取り組んでいきます。

WEB掲載情報

建設副産物再利用の状況/刈草・剪定枝の緑化資材転用/刈草減量の取り組み/SA・PAで発生するゴミの3R/道路設備のリサイクル/大型・特殊車両の再利用/水のリサイクル・リユース/環境に配慮した調達

自然と共生する社会の推進

生物多様性の保全

道路建設による自然の消失を最小限に抑えるため、建設前後にさまざまな対策を実施しています

当社グループでは、建設事業ごとに工事着手前に自然環境の調査を実施し、学識経験者を交えた委員会等で最適な自然環境の保全対策を検討しています。必要に応じて構造変更による隣接湿地の保存や希少植物の移植などを実施し、自然環境に及ぼす影響の最小化や生物多様性の保全に努めています。

また、建設後においても、環境の経年変化や保全措置の効果把握のためモニタリングし、適切な管理を行うことで、自然環境保全の質的向上にも努めています。

WEB掲載情報

「エコロード」の取り組み/「地域性苗木」の育成・植栽/けもの道や防止柵の設置/道路交通騒音の低減/吉野川の水環境保全

NEXCO西日本

社員コメント

環境方針の3つの重点テーマの実現を目指し、着実に環境経営を進めていきます

当社は毎年度環境アクションプランを定め、環境の保全・改善に努めています。2014年度は、CO₂の排出量削減に向け、本線やIC、料金所等を含む高速道路の電気使用量削減に注力し、2013年度比約1.6%減を達成しました。また、生物多様性保全の一環として地域性苗木(地域に自生している樹木の苗木)の植樹を進めており、2014年度は東九州自動車道で約5,000本の植栽を完了しました。今後、工事中の新名神高速道路に、約60,000本を植栽する予定です。

今後も、環境方針の3つの重点テーマの実現に取り組むとともに、環境負荷の低減に資する新技術・新材料の開発・採用によって、着実に環境経営を進めていきます。

技術環境部 専門役
首藤 繁雄

社会貢献活動の方針

NEXCO西日本グループでは、高速道路の重要な社会インフラとしての役割を果たすとともに、以下の方針のもとで、会社と社員が協力して積極的に社会貢献活動に取り組んでいます。

1. 社会貢献の目的

NEXCO西日本グループは、安全な暮らし、豊かな地球環境、安心と活力ある地域社会の実現に向けた取り組みを通じて、社会の持続的な発展に貢献します。

2. 活動方針

活動にあたっては、地域社会との対話と交流に努め、これまで培ったノウハウや資源を活かしてグループ丸となった社会貢献活動に取り組めます。

3. 重点分野

「安全」「環境」「地域の元気」の活動に重点的に取り組みます。

「安全」への取り組み

交通安全の啓発活動

高齢者や子どもが地域で安心して暮らせるよう、講習会を開催しています

高齢者や子どもが地域で安心して暮らせるよう、シートベルト着用の重要性や横断歩道での安全確認の仕方、飛び出し事故の怖さなどについてお伝えする交通安全講習会を、警察や交通安全協議会、市町村と連携して実施しています。こうした取り組みとあわせて、2014年度は運転免許センターや大学での出張講習会など、ドライバー向けの講習会も含め、グループ全体で81回実施しました。

今後も地域の皆さまが安全に暮らせるよう各地域で開催していきます。



シルバー講習会の様子

「環境」への取り組み

「つなぎの森」活動

西日本各地で森林再生に取り組んでいます

2008年度から西日本各地の地方自治体と協定を締結し、森林保全に取り組んでいます。グループ社員やその家族が参加し、自治体や森林組合とともに、2014年度までに7カ所、約65ヘクタールで植林や間伐を行いました。今後も引き続き、西日本各地で自治体などと協力し、森林保全に取り組んでいきます。



つなぎの森
四国大豊町での活動

「地域の元気」への取り組み

地域の子どもの教育支援

職場体験や現地見学会を実施しています

地元中学生による料金所での職場体験学習や、地域の子どもたちとの自然体験活動(芋ほり等)などを積極的に実施しています。また、沿線周辺の小学校に対しては、グループ社員が講師となって出張学習会を実施しています。2014年度は、高速道路に関する素朴な疑問にお答えする「はたらく車・親子見学会」を、計4回開催しました。

今後も地域の将来を担う子どもたちの育成に貢献する活動に取り組んでいきます。



地元中学生による
職場体験学習

[WEB掲載情報](#) 大学での道路工学講義の実施

グループおよびテナント会社との取り組み

[WEB掲載情報](#) グループ社員の社会貢献活動参加の奨励・支援/西日本高速道路エリア・パートナーズ倶楽部の取り組み

財務報告

連結損益計算書

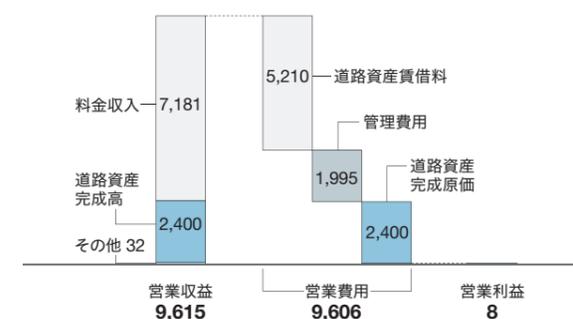
(単位:億円)

区分	2014年度	2013年度	増減
営業収益	9,615	8,287	1,327
料金収入	7,181	6,053	1,127
道路資産完成高	2,400	2,204	196
その他	32	28	3
関連事業	504	578	△73
SA・PA事業	327	347	△20
その他の事業	177	230	△53
	10,120	8,866	1,254
営業費用	9,606	8,298	1,307
道路資産賃借料	5,210	4,263	946
管理費用	1,995	1,800	195
道路資産完成原価	2,400	2,235	165
関連事業	458	522	△64
SA・PA事業	277	285	△7
その他の事業	180	237	△56
	10,064	8,821	1,243
営業利益(損失△)	8	△11	19
関連事業	46	56	△9
(うちSA・PA事業)	(49)	(62)	(△12)
	55	44	10
経常利益	79	61	17
当期純利益	30	34	△4

注1) NEXCO西日本グループは、当社および連結子会社26社、持分法適用の関連会社等7社で構成されており、高速道路事業、SA・PA事業、その他の事業を行っています。
注2) 「SA・PA事業」とは、高速道路のSA・PAにおける飲食・物販ならびにその不動産を賃貸する等の事業をいいます。
注3) 「その他の事業」とは、受託事業、コンサルティング事業、収益還元事業等の事業をいいます。
注4) 億円未満は切り捨てて表示しています。

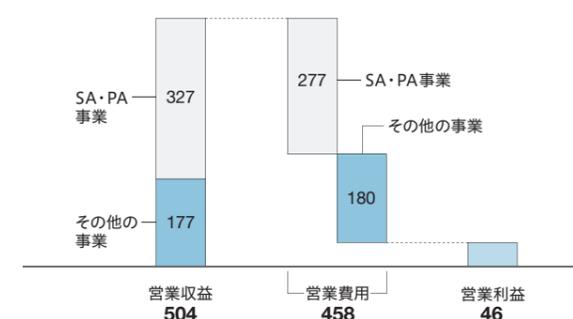
高速道路事業の損益

(単位:億円)



関連事業の損益

(単位:億円)



連結貸借対照表

(単位:億円)

区分	2014年度	2013年度	増減
連結資産	9,517	9,295	221
連結負債	7,902	7,702	200
連結純資産(自己資本比率%)	1,614(17.0)	1,593(17.1)	21(△0.1)

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:億円)

区分	2014年度	2013年度	増減
営業キャッシュ・フロー(道路建設投資)(その他)	436(△69)(505)	575(152)(423)	△139(△222)(82)
投資キャッシュ・フロー	△285	△270	△14
財務キャッシュ・フロー	△154	20	△174
現金及び現金同等物の期首残高	1,439	1,102	336
現金及び現金同等物の増減額	△1	336	△337
現金及び現金同等物の期末残高	1,438	1,439	△1

【道路会社のキャッシュ・フロー計算書】

・高速道路への建設投資は、道路会社にとって高速道路機構に対する「商品」のため、投資額は「営業活動キャッシュ・フロー」のマイナスに整理し、これに見合う資金は社債・借入金により調達するため「財務活動キャッシュ・フロー」のプラスとしています。
・高速道路が開通し、道路資産および社債・借入金を高速道路機構に引き渡す際に、道路資産完成高を「営業活動キャッシュ・フロー」のプラス、社債・借入金の引渡額を「財務活動キャッシュ・フロー」のマイナスとしています。
・したがって、高速道路への投資額が道路資産完成高を上回る決算期において、「営業活動キャッシュ・フロー」がマイナスとなる場合があります。

高速道路事業の概況

- 当決算期の当社管内の高速道路の通行台数は、前期比3.8%減少し、271万台/日となりました。営業収益のうち高速道路料金収入は、前期比1,127億円増の7,181億円となりました。
- 営業費用のうち、高速道路機構に対する道路資産賃借料は、料金収入の増加に伴い、前期比946億円増の5,210億円となりました。管理費用は、前期比195億円増の1,995億円となりました。
- 道路資産完成高は徳島自動車道(鳴門)CT~徳島IC)や東九州自動車道(行橋IC~みやこ豊津IC、豊前IC~宇佐IC)などの完成があり、前期比196億円増の2,400億円となりました。なお、道路建設にかかった経費と同額の債務を高速道路機構に引き渡すため、道路資産完成高は道路資産完成原価と同額となり、道路建設から利益や損失は発生しません。
- 高速道路事業全体の営業収益は前期比1,327億円増の9,615億円、営業利益は、前期比19億円増の8億円となりました。

関連事業の概況

- SA・PA事業については、交通量の減少等による店舗売上高の減少等により、営業収益は前期比20億円減の327億円となり、その結果、営業利益は前期比12億円減の49億円となりました。
- SA・PA事業とその他の事業を合わせた関連事業全体の営業収益は、SA・PA事業の減収に加え、国などからの受託事業の収益が減少したことなどにより、前期比73億円減の504億円となりました。また、営業利益は、SA・PA事業営業利益の減少が影響し、前期比9億円減の46億円となりました。



神戸大学大学院
経営学研究科 教授
南 知恵子 様

「コミュニケーションレポート2015」では、まずNEXCO西日本グループの事業内容について、どのような目標を設定し、どのような実施枠組みと計画で行っているのかを図示しており、その後続くトップマネジメントの企業方針、特集記事による高速道路の長期保全のクローズアップにより、企業の考え方と業務がよく伝わる内容となっていると評価できます。また特集記事も、保全に関し、POINTの囲み記事で現状の問題の指摘も行っており、読み手にとってわかりやすい内容になるよう留意されています。全体的に、詳細な説明とビジュアルを効果的に使用することにより、事業に関する丁寧なコミュニケーション方針が伝わってくる内容となっています。

一方、少し改善を検討されても良いのではと思った点は、コミュニケーションレポートはCSRの観点からは、ステークホルダーへのコミュニケーションを目的としているはずですが、NEXCO西日本グループとしてのCSRが21ページ目にやっと言及されているのが気になります。「みち、ひと・・・未来へ。」というスローガンのもと実施していることや、社会的課題に就いていこうとする企業姿勢や責任、行動が、冒頭の3つの特集記事のテーマにつながっているわけですので、コミュニケーションレポートのもう少し最初の方でCSRに対する考え方を打ち出した方が良いかと思えます。

CSRの重要課題と取り組み状況の一覧表は、課題に対する取り組みと実績、評価等が適度な詳細さでわかりやすいと思います。一方で、評価指標の「GRIガイドライン」など、誰でも知っているガイドラインではないので、その内容やなぜ指標として重要なのかについて多少説明があった方が良いかと思えます。また目標の到達度も重要ですが、むしろ目標設定の根拠等が示されていることが大事だと思います。

最後に細かい点ですが、SA・PA、JCTなどの略称ですが、目次の前ページに小さく略称に関する説明が記述されていて見落としそうになるので、もう少し目立たせた方が良いかと思えます。

第三者意見をうけて



取締役
常務執行役員
芝村 善治

今回のレポートにつきましては、第三者意見は、神戸大学大学院経営学研究科教授の南知恵子様からいただきました。

南様からは、コミュニケーションレポートがその企業の考え方と事業がわかりやすく丁寧に説明されているか、CSRの観点や内容について読者やウェブサイト閲覧者の理解が深まるような改善はないか、と

いったことに関するご意見をいただきました。この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

高速道路という重要な社会インフラを預かる企業グループとして、社会や国民の皆さまをステークホルダーと位置付けている弊社では、事業と経営方針をわかりやすく伝えることが特に重要であると考えており、その点に関して評価をいただきました。

また、改善点につきましては、より良い内容とするためのご提言をいただきました。ご提言内容を踏まえ、ウェブサイトへ反映させるなどレポートのさらなる充実に努めてまいります。

来年度からスタートする次期中期経営計画2020に向けて、引き続き、ステークホルダーの皆さま方とのコミュニケーションを促進するとともに、事業活動を通じて企業の社会的責任を果たすべく、グループ一丸となって取り組んでまいります。

NEXCO西日本グループでは、ステークホルダーの皆さまに当社グループのCSRに対する考え方や取り組みをわかりやすくお伝えするとともに、ご意見・ご期待を把握するためのコミュニケーションツールとして、「コミュニケーションレポート」を編集・発行しています。

2015年度は、これまで冊子のみで発行していたレポートを、「全体版」と「要約版」の2つのメディアで発行することとしました。詳細な取り組みを網羅的に報告する「全体版」は、ウェブサイトにする事で、ステークホルダーの皆さまが情報にアクセスしやすいように工夫しました。また、重要な取り組みを冊子にコンパクトにまとめた「要約版」では、ビジュアルを多用することで、親しみやすく手に取りやすいレポートを目指しました。

報告対象期間:

2014年4月1日～2015年3月31日(一部2015年4月1日以降の内容も含まれます)

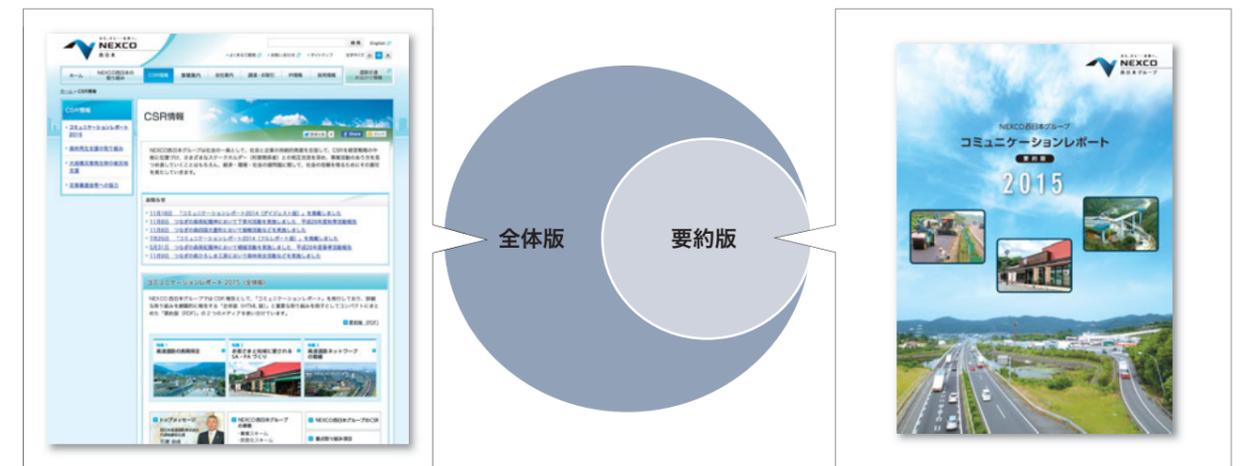
発行時期:

2015年7月(前回:2014年7月、次回予定:2016年7月)

参考にしたガイドライン等:

- 環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」
- GRI(Global Reporting Initiative)「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン第4版」(持続可能な社会の実現に向けて、組織の目標と実績について報告するための国際的ガイドライン)
- (財)日本規格協会「ISO26000:2010」(企業を含むあらゆる種類の組織の社会的責任に関する包括的ガイダンス)

「コミュニケーションレポート2015」各メディアの情報内容



全体版
網羅的な情報をウェブサイトで開示

要約版
重要な情報を抜粋し、冊子として発行

レポートへの主なご意見と改善のポイント (「コミュニケーションレポート2014」読者アンケートより)

<p>主なご意見</p>	<p>情報量が多すぎて消化できない。読みたい部分がさっと見つかるようにしてほしい。</p>	<p>通行料金の使われ方や、高速道路がどのように運営されているのか、よく分からない。</p>	<p>表現が硬い。もう少し利用者視点の表現を心がけてほしい。</p>
<p>改善のポイント</p>	<p>「全体版」と「要約版」の2つのメディアを設け、読者の知りたい情報によって、それぞれのメディアを使い分けられるようにしました。</p>	<p>高速道路事業の実施スキームの中でのNEXCO西日本グループの位置づけを簡潔に説明するページを設けました。(→3ページ)</p>	<p>特集では、ステークホルダー視点を意識し、その期待にどのように応えようとしているのか、ひと目で分かるようにまとめました。(→9～20ページ)</p>